

地理紀要

第 30 号



国境の町 ショブロン (ハンガリー)

2013

神奈川県高等学校教科研究会社会科地理分科会

目 次

注) PDF 化にあたって目次と巻末の総目次のみテキスト化してあります。本文は画像ファイルです。

追悼文

渡部 瞭先生

－鶴沼のエンサイクロペディア(百科全書)を目指した人－

島本 千也 (元茅ヶ崎西浜高等学校)・・・2

世界を見る

キューバ紀行 ー明るい社会主義のくに？ー

斉藤 正 (県立麻生総合高等学校)・・・4

ルワンダの今

古屋 明子 (県立釜利谷高等学校)・・・12

私の教材紹介

海外研修を生かしたロシア地誌の授業実践

中村 洋介 (公文国際学園高等部)

小川 剛史 (サレジオ学院高等学校)

栗林 和子 (鶴見大学附属高等学校)・・・16

お手軽プレゼンテーション

ー表現力アップに向けてー

根元 一幸 (県立座間高等学校)・・・20

夏季野外調査報告

渡良瀬川・利根川が紡いだ近代化

有野 洋輔 (フェリス女学院中学校・高等学校)・24

秋季野外調査報告

県央地区の商業について

ー厚木市と海老名市を事例にー

山本 大 (県立生田高等学校)・・・28

委員会報告

「東京大学農学部附属二宮果樹園」(中郡二宮町)

比佐 隆三 (県立二宮高等学校)・・・30

県下一斉テストの作問方針と2012年度の問題について

磯崎 厚 (県立厚木高等学校)・・・32

地理紀要総目次(第21～30号)

福元雄二郎 (神奈川大学附属高等学校)・・・45

表紙 佐野 久子(元県立横浜緑ヶ丘高等学校)

国境の町 ショプロン(ハンガリー)

故人追悼

渡部 瞭先生 — 鶴沼のエンサイクロペディア (百科事典) を目指した人 —

島本 千也 (元茅ヶ崎西浜高等学校)

平成24 (2012) 年6月23日、地理部会でも活躍された渡部瞭先生が癌のため亡くなられた。71歳であった。「地理紀要」としては、地理教師として、あるいは地理分科会や海外研修旅行等での先生の活躍を先に記すのが通例であろうが、ここでは退職後 (10年) の先生の活躍を中心に記してみたい。最後の10年にこそ、鶴沼のマイクロ地誌学を志したとされる先生の真骨頂が表現されているからである。

先生は鶴沼のマイクロ地誌学、エンサイクロペディア (百科事典・百科事典) を目指した人でもあった。

2007年6月、「老後の楽しみ」としての『共同時空 (NO64)』 (高校教育会館) にエッセイを寄稿している。それによると、60歳の2月に軽度の脳梗塞になったこと、以来、教員としての再任用などは受けずに気に入ったことだけをするようにしたこと。

「藤沢メダカの学校をつくる会」広報担当になった。

音楽鑑賞団体「鶴沼サロンコンサート」のホームページを運営した。

藤沢市の自然シリーズ『身近な川と水辺』を編集した。

「鶴沼を語る会」に入会、副会長、会誌「鶴沼」の編集を担当したなどである。

ここですべてについてふれることは不可能なので「鶴沼を語る会」での活躍を中心に触れて見たい。

2001年3月の退職後は高校の現場とは一線を画し、地元鶴沼の地域研究サークル「鶴沼を語る会」での活動が中心となった。「鶴沼を語る会」は鶴沼市民センター (公民館) 内の郷土資料展示室を拠点として、鶴沼についてのあらゆるアンテナをはりめぐらせている団体である。その会誌はすでに105号を出している。活動内容については渡部先生が中心となって制作されたホームページ (HP) をひらいてもらうのがもっとも近道であるが、鶴沼という狭い地域内のことが詳細に記されている。例えば、鶴沼年表は

5,000項目以上もあり、地図と一体となった見せ方などはプロの制作したHPも顔負けの出来栄である。会誌の『鶴沼』は105号まで発行されており、渡部先生の寄稿は23回以上ある。『鶴沼』105号には「渡部瞭副会長追悼ページ」が掲載されている。

渡部先生の最後の仕事は鶴沼郷土資料展示室で2012年6月15日～9月15日まで行われた「鶴沼の自然」の展示であった。鶴沼市民センター内の鶴沼郷土資料展示室は公設・民営のミニ博物館ともいえる存在で、年3回3カ月ごとの展示を行っている。この数年、渡部先生は展示室運営委員の中心として活躍し、最後のプロデュースとなったのが今回の展示であった。「鶴沼の自然」の展示は渡部先生の最後の仕事にふさわしい内容であった。内容について記すと。

1. 藤沢低地の地形発達史、2. 湘南砂丘地帯、3. 蓮池の外来種、4. アゾラ・クリスタタ、5. 川袋と蓮池、6. 源海上人とぐみ、7. 古老が語る鶴沼の自然、8. リゾート鶴沼の気候、9. 鶴沼海岸の「蟹気楼」、10. 鶴沼海岸の風物詩となった外来種、11. 鶴沼といえば松、12. クロマツ林のキノコ、13. クゲヌマラン、14. 鶴沼枝額蟲 (ホウネンエビ)、15. 滅びゆく湘南の鶴沼片瀬を弔う、16. 歌に詠まれた砥上が原の生物相、17. 更級日記とナデシコ、18. もっとも新しい民話伝説。以上でありまさに鶴沼のエンサイクロペディアにふさわしいものであった。『展示室だより』25号のパンフレットには先生の文章で湘南砂丘地帯について説明が記されている。

この展示には思い入れも強く、亡くなる4日前の6月19日に、気になる所があると医師の制止をも振り切って展示室を訪れて展示内容のチェックをおこなっている。その後、一旦自宅へ戻り、息子さんに資料の訂正をさせ、必要な所へ送信、病院へと帰っている。車いすで体中に5本の管が入った状態であった。その翌日も資料室 (内藤運営委員) へ電話が入り、前日に鶴沼海岸に打ち上げられたアザラシのその後の様子を聞き、記録として保存するように依頼するなどしている。鶴沼のあらゆることに最後まで

で執念をもって仕事をしていたことが理解できる。

先生の特技の一つはパソコンに通じていたことである。ホームページビルダーの仕事はいくつも残されている。「藤沢メダカの学校をつくる会」、「鶴沼サロンコンサート」、「日本バプテスト連盟 藤沢バプテスト教会」、「神奈川県立鎌倉高校スキー山岳部OB会」、「黒部五郎の道楽」、などであり、「黒部五郎の道楽」の中に「地理の眼で捉えた世界」があり、先生の参加された海外研修旅行の記録が残されている。地理分科会企画の海外研修旅行には1977年の第4回東南アジアに始まり、2002年、第13回のヨーロッパまで毎回参加されている。その中には語り草となっている1981年の1カ月以上に及ぶ南米旅行や、1985年の北アフリカ、西アジアの東地中海旅行の記録（写真）などもふくまれている。先生の海外旅行の足跡は世界各地に及ぶが、世界遺産だけでも110カ所も訪れていることがわかる。HP上にはその旅行の記録が詳細に記されており写真等は地理分科会にとっても財産となるものである。渡部先生個人のブログとして湘南の情報発信基地「黒部五郎の部屋」を運営していたことを知る人は多いのではないだろうか。そこには先生のこれまでの幅広い活躍が納められている。「黒部五郎の部屋」にアクセスすればいつでも先生に会えるのであるが、その中の「鶴沼をめぐる千一話」は癌が進行し余命を数えながらの仕事であり、鶴沼のマイクロ地誌が334話記されている。

最後になってしまったが、高校、地理教員としての仕事にふれると、2001年深沢高校を退職されるまで、小田原高校、小田原城東高校、横浜日野高校、鶴嶺高校、七里ガ浜高校に勤務されている。地理分科会では主に教材委員会に所属、地理演習帳や地理スライド集の作製などを中心となって行った。また、地理分科会の記念事業の『新 神奈川の地理』や『神奈川の川』などにも中心的な役割を果たされた。地理分科会が企画した海外研修旅行に1977年より2002年まで10回参加されている。『神高教50年史』の編集も担当されている。

先生は6月23日に召天され、25日に前夜祭、26日に告别式が本鶴沼にある藤沢バプテスト教会において催された。

先生は地理が大好きな少年のころを終生持ち続けた人であった。最後の最後まで自分の思いを押し通した人でもあった。先生の素志というか夢は藤沢に博物館・美術館をつくることにあった。「鶴沼を語る会」の活動や「鶴沼郷土資料展示室」での活動はそのための地ならしでもあった。先生の息子さんは大阪市立科学館に勤務と聞く。いつの日か藤沢に博物館建設の日がある時には、渡部先生の仕事が大切な財産として生かされると考えられる。



世界を見る

キューバ紀行

—明るい社会主義のくに？—

齊藤 正 (県立麻生総合高等学校)

はじめに・意外に近かったキューバ

2012年夏、キューバに出かけることにした。私事ながら定年まで2年となり、資金的に余裕のあるうちに少し遠いところに行ってみようと考えた。社会主義国が地球上から絶滅しつつある中、唯一、配給制などそれらしい制度が残っている国であり、アメリカとの確執を維持し独自の国作りを堅持しているキューバに興味を抱いていた。熱帯の情熱とアフリカのパワーと明るさを反映した音楽、文化も魅力だった。

でも、キューバは遠いなあ、と思っていたところ、JTBのチャーター機によるツアーが35万円位でハバナとトリニダなど周遊可能と知った。が、6月の時点ですでに予約一杯、あの値段で行けるのならと個人旅行でも可能かと調べてみた。

ネットで検索するとエア・カナダの正規割引運賃が8月中旬出発で18万ちょっとで購入可能(燃油サーチャージが5万以上で計24万弱)。この時期のヨーロッパ往復とほぼ同額で、トロントまで12時間、トロントから3時間半でハバナに到着、乗り継ぎ2時間で成田から18時間、同

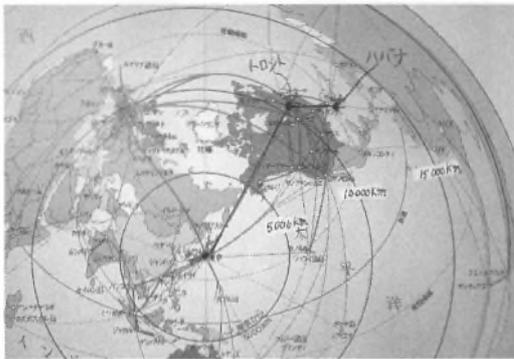


図1 キューバの位置(正距方位図法)

日着が可能と判明した。

キューバは意外に近いなあ、と思った。頭の中ではずいぶん南で遙か彼方というイメージがあったが、正距方位図法で見るとトロントから少し先で、トロント経由がほぼ最短経路である事が明確に判る。ついでに合衆国の西海岸ロサンゼルスと東海岸ニューヨークは日本からの距離は大きく変わらない。イメージとしては

ニューヨークはロサンゼルスより4時間くらいは遠いという感じだが。日頃、生徒に正距方位図法の効用を説いてきた地理教師として気恥ずかしい気持ちとなると同時に、①キューバへ行くのになぜトロント経由か(合衆国の経済封鎖で合衆国からキューバへの航空便は無い事もキューバの国家体制を考えさせる教材となる)、②東京からロサンゼルスは飛行機で約10時間かかるがロサンゼルスからニューヨークは約4,000km離れているが、東京からニューヨークまで飛行機で何時間かかるか?(正解12時間)という地図の問題が頭に浮かんだ。

1. 旅程と費用

旅程

8月15日(水)

成田17:20 → AC002 → トロント16:10 乗り継ぎ

17:55 → AC1798 → ハバナ21:20 泊

8月16日(木)

午前ハバナ市内半日ガイド付き観光

午後ハバナ市内自由見学 ハバナ泊

8月17日(金)

終日ハバナ市内自由見学 ハバナ泊

8月18日(土)

現地ツアー(英語)にて1泊2日でトリニダーなど観光:シエンフエゴス見学しトリニダー 観光 トリニダー泊

8月19日(日)

サンティ・スピリッツからサンタクララ見学 ハバナへ戻る ハバナ泊

8月20日(月)

ハバナ9:20 → AC1799 → トロント12:50

午後トロント市内見学 トロント泊

8月21日(火)

トロント8:20 カナダ鉄道97列車 → ナイアガラ10:16 ナイアガラ滝見学 ナイアガラ

17:45 カナダ鉄道98列車 → トロント19:42 トロント泊

8月22日(水)

午前トロント市内見学 トロント14:00 →



図2 キューバ行程図

AC001→成田15：45（8月23日）

旅の費用

- ①キューバ7日間フリーツアー代
 ホテル5泊・航空機（燃油代込）306,000円
 - ②現地ツアー代
 トリダー1泊2日現地ツアー代 13,175円
 ショー・トロピカーナ 11,475円
 ハバナ半日観光 5,440円
 手配手数料 5,000円
 - ③カナダ滞在費 ホテル2泊 38,600円
 カナダ鉄道ナイアガラ往復 3,648円
 (45.2 CAD)
 途中降機代 10,000円
 - ④食費・行動費など 約40,000円
- 総計約430,000円

少し高額になってしまったが、キューバ5泊7日にトロント降機出来るなら、やはりナイアガラの滝を見たいとカナダ滞在2泊3日を加えたので仕方が無い。キューバ5泊7日約30万は某中小旅行社のパックであるが、エアカナダのハバナ行き格安チケットがこの時期24万円（燃油代5万円）でホテルは旧市街のクラシックホテル（1泊1万6千円程度）を指定したので空港往復送迎付きを考えるとお得であった。今回1人旅であったので行動がしやすい旧市街地で、キューバらしいコロニアルなクラシックホテルを選択したのでこの部分が膨らんでしまった。

キューバでは短い日程で郊外の古都トリニダーへも足を伸ばしかつたので7日間フリーツ

アーを手配した旅行社でオプションを組もうとすると、4万円程度になるので、地球の歩き方に広告を出しているトラベルポデギータに依頼した。ここは現地代理店を持っており、各種ツアーを割安で手配する事が出来た。最初からここで航空券から全て手配すればもっとは安く上げられたかもしれないとちょっと後悔したが、トータルでまあ納得の価格には収まった。

2. エア・カナダでキューバへ

8月15日（水）いざ出発。

エアカナダ002便で成田を出発しトロントには定刻着、遅延が多いとの噂のエアカナダ、なかなか良いではないかと思って、乗り継ぎ手続きでハバナ行きを確認すると、あれ、2時間遅れで、やっぱりなと諦めの境地に。ただ、乗り継ぎ1時間半はかなり慌ただしい予定なので喫煙者の私にはゆっくり煙草タイムがとれて良いかとも思った。喫煙事情についてはカナダはいかにも清潔な先進国のイメージ通り公共施設のほかホテルなども全館禁煙が普通という国なので覚悟をしていた。トロントのホテルをネットで探すと1万円以下で泊まれ施設、立地の良い使い勝手の良いホテルは全館禁煙ばかりで、結局1泊18,000円のインターコンチネンタルの喫煙可能部屋を予約し宿泊代が嵩む要因となってしまった。これは路上なども厳しく規制されホテルの部屋くらいしか喫煙できないのではと考

DELHI	18:20	9W 229	Gate Closed	E78
DUBAI	21:40	EK 242	On Time	E73
DUBLIN	21:45	AC 894	On Time	E77
FRANKFURT	17:30	AC 872	Gate Closed	E77
FRANKFURT	18:40	LH 471	Boarding	E79
FRANKFURT	22:10	AC 876	On Time	E76
GLASGOW	22:05	WG 258	On Time	E80
HAVANA	17:55	AC 1798	Delayed 19:40	E68
LISBON	20:00	WG 210	On Time	E80
LONDON-GATWICK	22:05	WG 258	On Time	E80
LONDON-LHR	18:20	AC 856	Final Call	E72
LONDON-LHR	20:40	AC 848	On Time	E71
LONDON-LHR	21:55	AC 862	On Time	E75
LONDON-LHR	23:20	AC 858	On Time	E69
MADRID	21:45	AC 836	On Time	E70

写真1 遅れるハバナ行き

えていたからである。

だが、嬉しいことにこれは杞憂であった。まず、乗り継ぎのトロント・ピアソン空港では乗

り継ぎ者もカナダ入国手続きをして一旦入国をするので空港玄関の喫煙エリアに容易にアクセス出来るようになっていた。また、トロント市内でも要所に喫煙可能な箇所は見受けられ、喫煙者もそれなりに存在していた。



写真2 空港出口の喫煙者

ハバナ行き飛行機は結局2時間以上遅れハバナへ23時40分到着、ハバナフリーツアーにしておいたので迎えが有りホテルには結局午前1時に到着した。

ホテルはテレグラフォといい、ヘミングウェイが定宿としたアンボス・ムンドスと同格の四つ星、コロニアルな建物で1888年建造のものである。スペイン統治時代の面影を残し、ハバ

ナ旧市街に隣接する好立地であった。



写真3 ホテル・テレグラフォ

3. ハバナ市街の地域区分

(1) 旧市街地

16世紀初頭、メキシコ湾への大西洋からの入り口であるフロリダ海峡にほど近く、深く陸地に食い込んだハバナ湾はスペインのカリブ海支配の重要な拠点港として開発された。これに伴ってカテドラルや総督府官邸その他のスペイン風の建造物やピエハ広場などコロニアルな街並みが現在も残り世界遺産にも指定された旧市街地（ピエハ地区）が形成された。

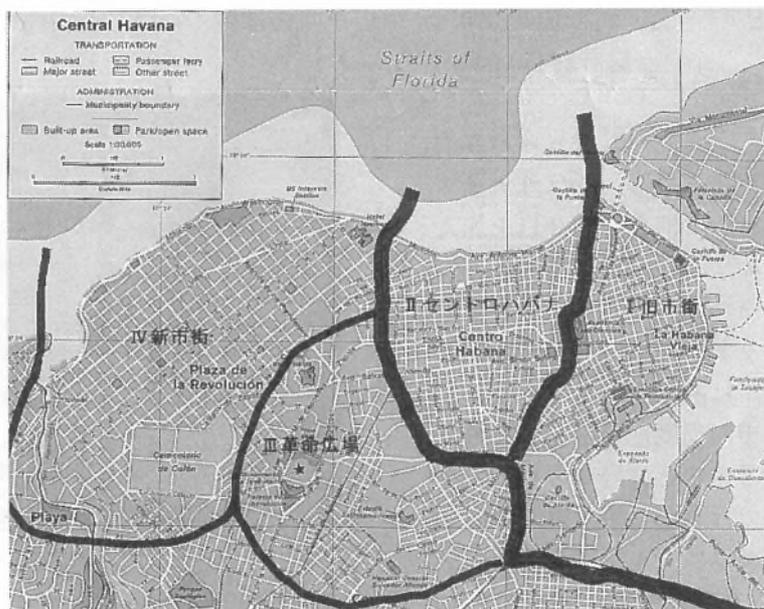


図3 キューバ市街区分図



写真4 カテドラル



写真5 総督府官邸

スペイン植民地の宝物が集まるハバナ港には16世紀後半から17世紀にかけてフランス、イギ

リス、オランダなどの海賊や軍が数回にわたって攻撃。フラスコ状の湾の入り口に1555年にフェルサ要塞が建造されたのを皮切りにさらに湾の先端部の両側にモロ要塞、プンタ要塞を設けハバナ湾の入り口を完全に封鎖出来る体制を構築した。

旧市街にはスペイン統治時代の面影を留めるコロニアルな建築物があふれ、それを利用したホテルや博物館、レストラン、ショップなどが集まり、キューバ内外の観光客や買い物客で賑



写真6 フェルサ要塞

わっている。旧市街の中心を東西に貫くオビスポ通りには米国の作家ヘミングウェイが定宿とし「誰がために鐘は鳴る」などを執筆したホテル・アンボス・ムンドスがあり、その部屋は現在、博物館として公開されている。常夏のキューバの風土を愛したヘミングウェイは1940年から

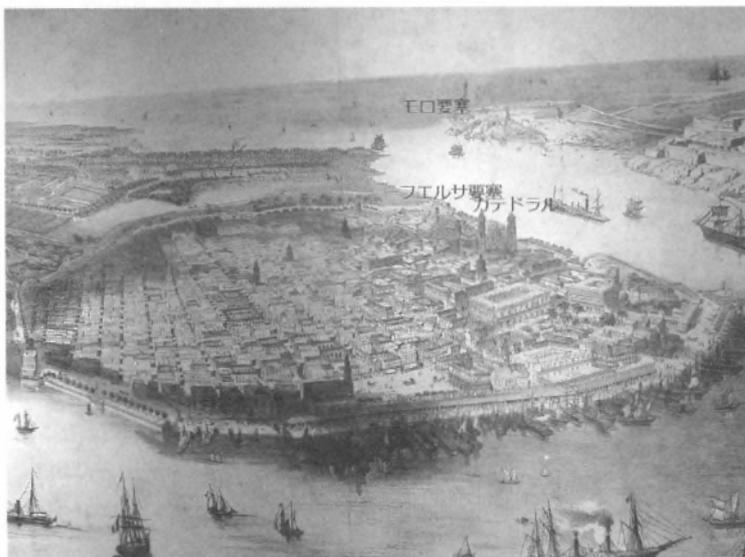


図4 16世紀のバハマ旧市街

60年までの20年間、この地に住んだ。また、オピスポ通りの入り口には彼が良く通ったバー・フロリディータがあり、彼の好んだラム酒ベースのダイキリが名物となっている。



写真7 旧市街の中心オピスポ通り



写真8 ホテル・アンボス・ムンドス内のヘミングウェイの部屋



写真9 ダイキリとヘミングウェイ

(2) セントロハバナ

18世紀から19世紀にかけ、キューバはサトウキビやタバコのプランテーション経営が発展し、ハバナ旧市街地は貿易商やプランテーション主、官僚の居館、港湾労働者や中小店主などの立地により高密度化し、1863年には旧市街地の西側を限っていた城壁が壊され市街地が拡大する。

キューバは1902年にスペインから独立するが事実上のアメリカの保護国として1959年のキューバ革命まで砂糖資本を中心とするアメリカ資本の活動の場となる。キューバの国民経済的には収奪であるが、都市ハバナは急速に拡大していき、旧市街地の西側が新たな経済活動、政治・統治機構の中心地として発達する。これがセントロハバナ地区であるが、その象徴的な建物が1929年に建造された旧国会議事堂であるカピトリオである。アメリカの国会議事堂を模したこの建物は大理石をふんだんに使用した豪華なもので20世紀初頭のキューバの経済的繁栄を物語っている。



写真10 カピトリオ

(3) 新市街（ベダード地区）

セントロハバナ地区の西側には画一的なグリッドで覆われた街区が広がる。道幅は広く広大な街路樹が配され、ゆったりとした一戸建ての高級住宅街が続いている。これらはセントロハバナ地区で繁栄を享受したアメリカ砂糖資本や関連産業従事者、官僚層の居宅で1915年頃から建設され、従来の中庭を持つスペイン風の邸宅とは異なり敷地の中央の居宅を持つアメリカの郊外住宅の系譜を持つ物である。



写真11 アメリカ的な高級住宅街(上下)

(4) 革命広場地区

1959年のキューバ革命によるパティスタ政権崩壊と共産党革命政権樹立後も、キューバの首都としてのハバナの位置は引き続き変わらなかった。むしろ革命政府は、ハバナをキューバ社会主義建設の中心地たる生産都市へと変えるべく、「大ハバナ都市圏」として住宅地帯、新工業地帯、自然公園などの都市整備をはかる都市計画を実施した。その中心的事業が旧市街と新市街の中間の丘陵地帯での革命広場の整備である。

革命広場は毎年1月、5月にはカストロ議長の演説が行われ数十万人の人が参加すると言われる。広場を見下ろすように建つ高さ109mのホセ・マルティ記念博物館や白大理石で造られたホセ・マルティの像が目立つ。マルティは1895年から第二次キューバ独立戦争を指導し、自身は同年戦死したものの、キューバ独立軍はスペイン軍との死闘を続け、1898年には島の半分以上をスペインから解放させ、キューバ独立の父として国民の絶大な支持を持っている。また広

場の近くには内務省、陸運省、郵政省、国立劇場、国立図書館など国家機関が集まっている国家の中心地でもある。夜になると内務省の建物の側壁にはチェ・ゲバラの顔が浮かび上がる。



写真12 ホセ・マルティ記念博物館



写真13 内務省の建物側壁のゲバラ



写真14 革命広場を埋める群衆

4. キューバの魅力

スペインの植民地化によりもたらされたラテン文化とプランテーション労働者のアフリカ黒人文化が混血融合し、熱帯の風土の中で情熱的でリズムカルではあるが、どこか安らぎを感じるキューバ文化が形成された。それが、端的に現れているのがキューバ音楽である。ハバナでは小さなレストランでも生バンドがよく見かけられ、音楽が生活に密着している事がうかがわれる。リズムカルで軽快なキューバ音楽の定番と思われる数曲がどのレストランやバーの生バンドで聞かれ、キューバ音楽に詳しくない筆者も自然に身体に染みついていった。

その中で「*Comandante Che Guevara* (チェ・ゲバラ司令官) ..」という歌詞が耳に焼き付いてしまった。帰国してネットで調べてみると「*アスタ・シエンプレ (Hasta Siempre)*」という曲で、「アルゼンチン出身のチェ・ゲバラ (1928~1967年) が同国を離れたことが発表された際に、キューバ革命への功労に感謝する目的で作曲したものだが、その美しいメロディおよび韻によりキューバ国内外に広く知られることになった。発表から40年以上経過した現在でも、シルビオ・ロドリゲス (Silvio Rodriguez) やプエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ、またナタリー・カルドン (Nathalie Cardone) などにより幅広く歌われている。」とあって納得した。

歌詞中では「*Tu mano gloriosa y fuerte* (栄光に満ちた強いあなたの手が) *Sobre la historia dispara* (歴史上で火を吹く) *Cuando todo Santa Clara* (サンタ・クララの街全体が) *Se despierta para verte*. (目を覚ましてあなたに会うときに)」とゲバラのサンタ・クララでの活躍を称えている。



写真15 街中でよく見かける生バンド

音楽と並んで、キューバを特色づけるものはアフリカ系の血を引き継ぐ優れた身体能力から生み出されたダンス、スポーツなどでの活躍である。バレーボールや野球などの世界大会での活躍は周知の事であるが、ハバナの見所の一つにキャバレ・トロピカーナでのダンス・ショーがある。1939年にオープンした歴史あるトロピカーナは2,000人を収容できる大きな劇場で、ラテン特有の華麗かつ美しいダンスショーが行われる場所として非常に有名であり、13のプログラムから構成されているが、息つく暇もないぐらい次から次へと出てくる素晴らしいダンサー達の舞いに注目。また、演奏するオーケストラはジャズだけでなくキューバ音楽のサルサ、ソン、ロマンティカなどラテン音楽を含んだ多彩な曲を演奏し、音楽とダンスの文化に触れるのに好適な場所である。



写真16 トロピカーナでのダンス・ショー

5. トリニダーとサンタクララ

キューバ滞在3日目に現地旅行社のトリニダー1泊2日のツアーに参加した。ツアー参加者はドイツ、ポーランド、コロンビアなどからの10名程度でガイドはスペイン語、英語のバイリンガルで案内した。国交の無いアメリカ人はおらず、英語のネイティブもいないことからガイドの英語はゆっくりで聞き取りやすかった。紙数の関係で概要のみ記述する。ハバナから南東400km程のキューバ中部に立地、ハバナから高速経由で3時間程度で到着。ディエゴ・ベラスケス・デ・クエリヤルによってトリニダーが建設されたのは1514年で、砂糖取引がこの地方の基幹産業であった時代の街並みを特に良く保存している街の一つである。トリニダー市街中

心のマイヨール広場(奴隷取引も行われていた)周辺にはサトウキビ取引で財を成した富豪のコロニアル様式の邸宅が残り、丸石の敷き詰められた街路とともにスペイン植民地時代そのままの風情を体感した。



写真17 トリニダー市街地 写真後方の塔はトリニダーのシンボルで25セントコインの図柄となっているサンティシマ教会。

トリニダー郊外のホテルに1泊し、ハバナへの帰路にサンタ・クララに立ち寄った。サンタクララは革命勝利の前年1958年12月29日ゲバラ指揮する革命軍がバティスタ政権の装甲列車を襲撃し、革命勝利への大きな一戦が行われた地である。これを記念して装甲車がモニュメントとして保存されている。また、1967年ボリビア内戦で戦死したゲバラの遺骨を安置するゲバラ霊廟および彼の業績を展示する博物館が設置され、ゲバラの聖地ともいえる地であり、革命の熱情を感じさせた。博物館にはDVDや文献資料が豊富にあり教材として大いに役立った。



写真18 装甲車

おわりに

旅のきっかけは冒頭で述べたが実は6、7年前に海外研修委員会がキューバ巡検の企画を募集し、筆者も応募したのだが15名に満たず中止となってしまった事が今回の旅の遠因となっていた事を思い出した。その頃革命50周年でゲバラの青春旅行映画「モーターサイクリスト・ダイアリー」などが上演されミニ・キューバブームが起こっていた。

今回、巡検中止のリベンジを果たせたわけだが、やはり実際に地域を歩き、観て感じるにより地域理解が大きく進化する事を改めて痛感した。地理はやはり巡検が原点であり、この点を伝えられる授業をしたいものだとも考えた。

世界を見る

ルワンダの今

古谷明子（県立釜利谷高等学校）

はじめに

ルワンダと聞くと、『ホテル・ルワンダ』や『ルワンダの涙』で映画化された、1994年に起こった大虐殺を思い浮かべる人は少なくないだろう。ルワンダでは、フツとツチという2つの民族が対立し、1994年に100日間で80万人以上が犠牲となる大虐殺が起こった。その犠牲者のほとんどが少数派のツチであった。

しかし、大虐殺から18年。ルワンダは目覚しい復興を遂げ、その成長ぶりは「アフリカの奇跡」とまで呼ばれるに至った。

悲惨な出来事を経験したルワンダの急成長がどのようなものであるのか、そして、あの出来事は今、どのようなかたちで人々の中に残っているのか。そうしたことを少しでも垣間見ることができたらと思い、ルワンダを旅行することにした。旅行は2011年12月24日から2012年1月3日までの約10日間。1年前の現状ではあるがその様子を報告したい。

1. ルワンダの風景

ルワンダはアフリカのちょうど真ん中にある四国の1.5倍ほどの国である。そこに約100万人が暮らしており、その人口密度はアフリカー。飛行機からルワンダを見下ろすと、美しい丘が一面に連なっており、その様子は「ミル・コリンズ（千の丘）」と呼ばれている。

ルワンダの農村ではその丘をきれいに耕した段々畑が見られ、村人が農作業をしている風景は、まさに日本の農村を彷彿させる。現在、ルワンダではコーヒーの生産に力をいれており、輸出用の作物として盛んにつくられている。

ルワンダの市場を見ると、人々が普段口にする食材が豊かであることが分かるが、私がルワンダ滞在中の食事によく口にしたのがイモとバナナである。焼いてあったり、揚げてあったり、煮込んであったり、ふかしてあったり…とにかく、いろんな形で登場する。市場でも山ほどのイモとバナナを見かけたが、ルワンダの食事に

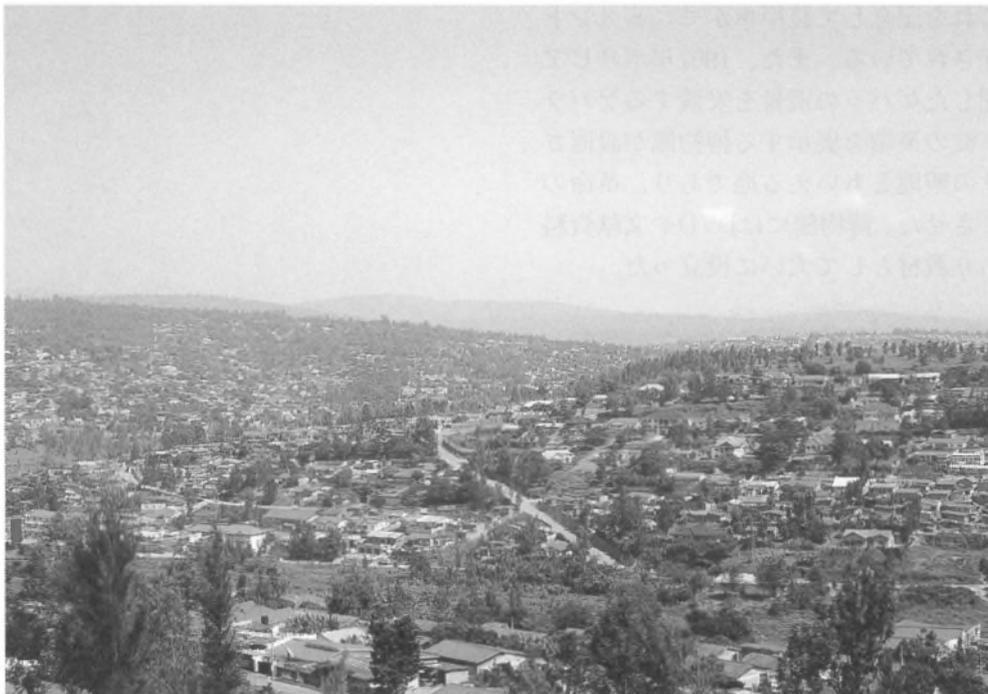


写真1 首都のキガリ郊外。丘が連なる。

は欠かせない食材の1つであろう。

ルワンダでは、首都キガリから地方へ伸びる幹線道路はきれいに舗装されているが、その道路を一步外れると、赤い土埃がまう道路があるだけ。農村では電気や水もまだ通っていないところが多く、そのため、ポリタンクを持って歩いている子どもたちをよく見かけた。自給自足のような生活を送る人々がまだまだ多いようである。



写真2 市場の様子



写真3 ルワンダの料理

2. 成長するルワンダ

一方、ルワンダの首都キガリでは、あちこちで新しいビルが建設され、まさに建設ラッシュという様相である。道はきれいに舗装され、ゴミはほとんど落ちておらず、おしゃれなお店も並ぶ。整然としていて、ここが十数年前に破壊された街なのか、と思うくらいである。ルワンダの経済成長率は約8%。「世界一短期間でビジ

ネス環境の改革を実現した国」として世界銀行が賞賛したこともある。

この復興と成長の背景には何があるのか？それは、この国の大統領で「CEO大統領」とも呼ばれるポール・カガメ大統領の手腕によるものとされる。ポール・カガメは1959年、2歳で隣国ウガンダに逃れ、その後、反政府軍に加わって、RPF（ルワンダ愛国戦線）を率いるようになった人物である。1994年の大虐殺の後、首都キガリに侵攻して旧政府軍を倒し、治安を回復させ、2000年に大統領になってからは様々な改革を進めて国の復興の最前線に立ってきた。その改革の一つが、民族対立の混乱の中、欧米などの海外で暮らしていたルワンダ人を呼び戻し、経済復興させようというものであった。今見ることのできるオフィスビルの建設ラッシュや道路整備は、こうしたルワンダ人が農業、観光産業、不動産に投資した結果である。



写真4 首都キガリ

3. ルワンダの悲劇が残る場所

ルワンダ人はとても穏やかな人たちである。信仰深いキリスト教徒であり、親切で、気さくな人が多い。首都キガリで経済成長を肌で感じ、このようなルワンダ人の穏やかさに触れると、本当にここで大虐殺があったのかと疑問に思えてくる。しかし、その傷跡は確かに残っていた。

ルワンダ東部のキブイエでは、教会に虐殺の犠牲になった人々の遺骨が並べられており、そこには「never again」の文字があった。

また、ルワンダ南部のムランビでは、丘の上



写真5 キブイエの教会

にある公立の技術学校で、当時、虐殺を恐れて避難していた4～6万人の人々が、インテラハムウェ（フツの過激派民兵）に襲われ、多大な犠牲者を出した。現在、その技術学校はGenocide memorialとして残っており、教室にはその時犠牲になった人々の遺体がミイラのようにになって、何百体と並べられている。

頭を割られて亡くなっている子ども、死にたくないと言っているように手を伸ばして亡くなっている人、子どもを抱いて亡くなっている母親... 当時の人々の生々しい姿がそこにあった。まさに地獄絵でも見ているようで、今でもその光景は目に焼き付いている。そして、遺体のある教室に入った瞬間、鼻をついた、何とも言えない異臭も鼻の奥に残っている。

ルワンダの人たちに虐殺当時の話を聞くのは少しためらわれたが、それでも聞いてみると、私が外国人だからか、意外と話をしてくれた。

首都のキガリで出会った女性は虐殺で父といとこ家族を殺されたと教えてくれた。昔はフツとかツチとか区別なしに仲良かったんだけど... と言う。また、タクシードライバーのある男性は、自分の兄が殺されてしまった、それは恐ろしい光景だったと語った。

偶然出会った青年海外協力隊として派遣されている隊員からも村の様子を聞くことができた。中でも驚いたのは、今でも同じ村に被害者であるツチと加害者であるフツと一緒に生活を

しているということであった。「この台所で母が殺されたのよ」と話すツチの人と、その加害者として刑務所に入っている夫を持つフツの人が同じ村で暮らし、顔を合わせているというのだ。どんな思いで同じ村で暮らしているのか...。考えずにはいられなかった。様子を語ってくれた隊員の方は、一緒に作業をする場合はギクシャクしているが、それでも少しずつ昔のように話ができる関係ができないか、試行錯誤しているということだった。

ルワンダではフツやツチという民族名を発することはタブーのようである。それは、キガリで出会った女性と食堂で話をしていた時に、こちらが思わずフツ、ツチという言葉が発した瞬間、彼女の顔がこわばり、動揺して周りを気にしていたことですぐに分かった。

事実、ルワンダで出会った青年海外協力隊の隊員たちは、隊員同士で虐殺の話をするときは、フツのことを「Fの人」、もしくは多数派、ツチのことを「Tの人」、もしくは少数派と言うようにしていると教えてくれた。

カガメ大統領はルワンダにはフツもツチもなく、あるのは「ルワンダ人」だけだという姿勢をとっている。それが民族名のタブー視につながっているのだろうが、そこにフツとツチ、2つの民族の溝の深さを感じずにはいられなかった。



写真6 ムランビのGenocide memorial

おわりに

ルワンダに到着し、飛行機から降りると、暖かな心地よい風を感じながらも、空港から街に出るマタツ（ワゴン車型バス）に乗った時、ひしめき合うように寄り添って乗っているルワンダ人がみんな虐殺を経験しているのかと思うと、なんだか背筋がぞっとしたのを覚えている。

しかし、ルワンダはとても穏やかな国であった。街を案内してくれたり、家に招いてくれたり、困っていると助けてくれる人もいた。村では歌や踊りを踊る村人がいて、一緒に踊ったりもした。とても、親切で陽気な人たちに多く出会った。経済成長とともに治安も安定していて、とても十数年前に大虐殺があったとは思えないほどのにぎわいが街や市場にはあった。

しかし、それでも記憶から虐殺の歴史が消えたわけではない。はっきりとその歴史は各地に、そして人々の心に刻まれていた。フツとツチの民族の溝は依然と有り、経済成長の裏では格差も大きくなってきている。

また、今はカガメ大統領のもと、治安は安定しているように見えるが、その強権的な姿勢に少しずつ批判もでてきている。今後、どのようにルワンダが虐殺の負の遺産を乗り越えて発展していくのか、注目したい。



写真7 ある村で

<参考文献>

「NHKスペシャル」取材班 (2011) 『アフリカ 資本主義最後のフロンティア』新潮新書
 Philip Briggs, Janice Booth (2010) 『Rwanda』
 Bradt Travel Guides

私の教材紹介

海外研修を生かしたロシア地誌の授業実践

中村 洋 介 (公文国際学園高等部)

小川 剛 史 (サレジオ学院高等学校)

栗林 和 子 (鶴見大学附属高等学校)

はじめに

2011年7月に地理分科会海外研修委員会では、ロシア沿海州(プリモルスキー)における5泊6日の海外調査を企画し、18名の参加者でウラジオストクからハバロフスク周辺を巡った¹⁾。海外研修のおもな目的は、現地で地理的事象を観察、発見、経験し、とくに外国地誌の教材を発掘して、参加者相互に研鑽していくことであると考えている。

ロシアは、各社の高校地理A、B新教科書すべてで取り扱われており、地誌学習として国単位で重視されている。一方で、近代日本の成立以降、日本とロシアは、領土の交換、数度の衝突した歴史があり、今日では領土問題を抱えている。そのような歴史的背景の中で、最近では両国の貿易量は増えつつあり、経済交流が深まる中で、2012年にはウラジオストクでAPECが開催された。このような背景から、距離的に近いが心理的に遠い存在であったロシア極東の地理的話題が新聞記事でもみられるようになってきた。しかしながら、地理教育の視点で見ると、ロシアは近隣国でありながら、日本国内では韓国、中国あるいは欧米諸国と比べると地理的情報は多くなく、教師としても学ぶ機会が少ない。

このような現状を考慮すると、現地で得られた成果をロシア地誌の授業案として示すことも海外研修委員として必要ではないかと考えた。筆者の委員3名は現地で得られた資料や見聞きした体験をもとに、オリジナルの授業案を作成して今年度の授業に臨み、各々の学校で取り組んだロシア地誌の授業実践を報告する。公文国際学園では高2必修の地理A、サレジオ学院では高3選択の地理B、鶴見大学附属では高1必修の地理Aでの実践である。なお学習指導要領の中では地理Aに「地誌」という表記はないが、ここでは世界諸地域の学習を地誌学習に含めて報告する。

1. 公文国際学園高等部・高2地理Aの実践

(1) ロシア極東の自然地理と多様性

地理Aでは、世界諸地域の生活・文化を環境や民族、宗教などから考察し、日本との共通点や相違点をふまえて、多様性や異文化理解につなげる学習が求められる。ロシア学習の実践では、海外研修中に撮影した写真と現地で購入した地図をもとに考えさせた。

ロシアの学習は、ケッペンの気候区分に基づいた気候学習を含めておこなった。亜寒帯気候の学習では、シベリア・オイミヤコン周辺の冬季の最低気温が氷点下60°Cにおよぶことがよく扱われる。冬季に著しく寒冷となるシベリアには永久凍土が分布し、タイガは永久凍土の夏季の融解水から適度な水分を補い、シベリアの豊かな森林資源を持続させている。一方で、この森林では伐採の進行が問題となっている。授業ではアムール川に停泊する木材運搬船が針葉樹の丸太を満載する写真を見せた。この船は何をどこに運搬しようとしているのか考えさせた(写真1)。丸太はロシアから中国へ渡り、そこで加工された製品が日本へ輸出されることもあるという。事前学習会に講師として招聘した神奈川県自然環境保全センターの山根正伸氏の資料に基づいて考えていった。



写真1 アムール川に停泊する木材運搬船

NHKの番組「地球イチバン—イチバン寒い村ロシア・オイミヤコン—」を視聴し、シベリアの冬季の厳しい気候環境とその気候に対応した住民の生活、またアジア系の民族がシベリアに居住することを確認した。海外研修ではアムール川の畔にあるナナイ民族の集落を訪問した。授業では撮影した集落の人々の写真や踊りを見せ、ロシアの民族の多様性を考えさせた。

日本—ロシア間には自然地理的つながりもある。海外研修では低平で広大なアムール川の蛇行帯を眺めることができた。アムール川の蛇行帯の湿地からは、大量の鉄分が流れ出しており、その河口では、流水による深層海流がその鉄分を太平洋に流し、その鉄分によって繁殖したプランクトンがやがて親潮海域の豊かな漁業資源となる（白岩 2010）。「NHKスペシャル 日本列島奇跡の大自然」を視聴し、湿地の写真と現地で購入したアムール川流域の地図を見せながらその湿地の広さを日本列島と比較させ、漁業資源の観点からシベリアから太平洋にかけての生態的、自然地理的つながりを考察させた。

(2) ロシアと日本の経済的つながり

現地ではウラジオストクからハバロフスクまでシベリア鉄道に乗車した。シベリア鉄道はウラジオストクからモスクワまでの9,297kmを7日間かけて走る。教科書や地図帳の「ロシアの民族分布」をみて、シベリアのスラブ系民族の分布はなぜ南部に偏るのか考えさせた。シベリア鉄道の写真を生徒に見せながら、シベリア鉄道とスラブ民族の分布が重なり、シベリア鉄道に沿って都市が並ぶことに気づかせた。

ロシアの2000年代の経済成長は著しい。その成長は中国の工業による経済成長とは異なり、原油、天然ガス価格の高騰とその輸出の増加による。教科書や資料集の経済成長に関する図表や文章から、なぜロシアの経済は成長しているのか考えさせた。ウラジオストクの書店で購入した中学3年生用の地図帳には、ロシアの油田、ガス田、シェール油田の位置とパイプライン網が主題図の中に細かく記載されている。海外研修では、ナホトカ近郊のコジミノ港にある原油積み出し施設を近くで見学した。ここから積み出される原油の7割が日本向けであるという。

地図と写真を生徒に提示して、シベリアの石油ビジネスの興隆を探った。

シベリア内陸の原油、天然ガスは、鉄道やパイプラインを通じて日本海沿岸まで輸送され、最終的に船で積み出される。日本とロシアを結ぶ天然ガス計画の新聞記事や、増加する日本のロシアからの天然ガス輸入の推移を提示して、近い将来の日ロのつながりについて考察させた。ここでは教師はファシリテーターとなってディスカッション形式で対話させた。

新聞の1面にシベリア鉄道の貨物を利用する日本の自動車会社の記事が掲載された（朝日新聞 2012 a）。なぜ日本の自動車会社はシベリア鉄道を使って輸送するのか。世界地図を見せながら、スエズ運河経由とシベリア鉄道経由の距離を確認させた。さらに融け出す北極海を新たな航路とする商船の記事を紹介した（朝日新聞 2012 b）。再度、近い将来の日本とロシアの関係はどのように展開すると思われるか考えさせた。

2. サレジオ学院高等学校・高3地理Bの実践

(1) ロシアイメージ

研修の企画段階でわれわれ委員が直面したことは、「情報が無い！」ということであった。BRICSの一つに数えられるロシア、また、ネット社会の今日であるが、ネットで調べても（生徒には安易にネットで調べるなど注意しながら）同様であった。それこそ『地球の歩き方』以上の情報はなかなか得ることができなかった。“近くて遠いロシア”であった。そのような情報が無いロシアを授業で扱う際の留意点を、生徒へのアンケートなどをもとにまとめたい。

委員が勤める3校の生徒に対してロシアのイメージを自由回答形式で聞いた（表1）。アンケートはロシアを授業で扱う前に実施したものである。表1をみると、「やはり」とうなずくことができる項目ばかりである。しかし、言い換えれば、生徒たちは、何となくいっているイメージに支配されており、テレビなどのメディアの影響を強く受けていると思われる。一方で、歴史的な出来事や知識・認識はもっていることを読み取ることができる。アンケートの14位以降は、雪、ボルシチ、シベリアンハスキー、ス

ターリン、森林が多い・針葉樹林、ピロシキ、コサックダンスと続く。

1	寒い	144	44.6%
2	広い、大きい、国土が広い	94	29.1%
3	プーチン大統領	36	11.1%
4	北方領土、北方領土問題 ソ連、旧ソ連	27	8.4%
5	ロシアの帽子、毛皮の帽子、毛皮	21	6.5%
6	マトリョーシカ	20	6.2%
7	美人、美人が多い	18	5.6%
8	ウォッカ、コニャック、酒に強い	16	5.0%
9	本田圭佑	15	4.6%
10	シベリア鉄道	14	4.3%
11	モスクワ 日露戦争	10	3.1%
12	エスキモー、犬ぞり	9	2.8%
13	社会主義 強い、戦争に強い、軍事大国	8	2.5%

表1 高校生がいだくロシアのイメージ

公文国際学園、鶴見大学附属、サレジオ学院で実施。
回答数323。

(2) 日口貿易

日本・ロシアの貿易関係をみてみよう。『日本国勢図会』によると、金額ベース（2011年）で、日本からロシアへの輸出は9,407億円である。これは日本の輸出相手国の中で15位（1.4%）にあたり、フィリピン（8,941億円）やインド（8,821億円）と同規模である。品目でみると1位が自動車（62.6%）、2位が機械類（20.5%）、3位が鉄鋼（3.6%）、4位がタイヤ・チューブ（3.5%）、5位が自動車部品（1.9%）となり、自動車関連が7割近くを占める。海外研修では「ここは日本か」と思うくらい日本車だらけであったことがうなずける（写真2）。



写真2 ハバロフスク市街に並ぶ日本車

一方、ロシアから日本への輸出は、15,139億円である。これは日本の輸入相手国の中で13位（2.2%）であり、台湾（18,519億円）よりも小さく、クウェート（10,442億円）よりも大きい規模である。品目は、1位は原油（32.8%）、2位は液化天然ガス（24.9%）、3位は石炭（10.1%）、4位は魚介類（7.5%）、5位は石油製品（7.0%）である。資源エネルギー関連がほとんどである。日口の距離や位置を考えると、貿易の面では活発であるとはとてもいえない状況である。実際、2009年には富山県高岡市の伏木港とウラジオストクを結ぶ定期船が廃止されている。

3. 鶴見大学附属高等学校・高1地理Aの実践

高校1年生の地理Aの授業で昨年の海外研修で訪れたロシア沿海州地域を扱った。生徒にとって、ロシアは距離的には近くとも知識も少なく、歴史的背景などからむしろ疎遠な国という印象を抱く生徒が多い。今回は研修を通して、授業者自身も感じた「ロシア沿海州地域と日本との結びつき」を生徒にも伝えたいと思い授業を計画した。

地理Aでは、1学期後半から世界の諸地域についての地誌学習を行っている。1年次の学習ということもあり、まず地形、歴史的背景など基礎知識について学習し、後半で沿海州地域と日本との結びつきという項目で、まず沿海州地域が豊富な資源をもとにロシアの中でも開発が急がれる地域の一つであり、ロシアの東アジアの窓口として重視されている地域であることをAPBC開催に関する新聞記事をもとに確認した（朝日新聞 2012c）。最後に現地の写真をスライドで見せ、中にクイズを盛り込みながら、「日本に最も近いヨーロッパ」と言われるウラジオストク、ハバロフスクで見た風景を紹介していった。今回は、①貿易②食文化③現地の人々との交流を軸にし、写真をまとめた。以下がその内容である。

まず、生徒にウラジオストクまで、飛行機で何時間かかると思うか質問した。ヨーロッパは10時間程度かかるなど、遠い国のほうが漠然と所要時間を覚えている生徒もいたが、ウラジオストクまで約2時間という所要時間を知ると

驚いていた。時差は1時間であり、「え、そんなに近いの？」という反応であった。

貿易面については、日本車のロシアへの輸入を扱った。日本のトラックが塗装も変えないまま走っている写真への反応は大きかった。規制はありつつもウラジオストクが日本中古車の販売の一大拠点であることを解説した。

食文化面では、ロシア料理と聞いて思いつく料理を生徒に聞くと圧倒的に「ボルシチ」、「ピロシキ」だったが、ペリメニのような小籠包に似た中華料理風のものもあること、また現地調味料として使われていた醤油の写真も印象的だったようだ。また、市場を見学した際に撮った山積みのイクラの写真を見せ、イクラの名前がロシア語からきていることを説明した。一方で「イクラ」がロシア語では魚の卵全般を表すことは新鮮だったようである。

巡検中に交流のあった日本語を勉強している学生たちとの話や、モノ教材として本屋で購入した日本の漫画『NARUTO』のロシア語版には興味をもった生徒が多かった。モノ教材としては、もう一つ、現地で買ったマトリョーシカを紹介した。マトリョーシカ自体はすべての生徒が名前を知っていたが、その起源が日本の箱根細工にあるという説があることを説明すると、やはり意外だという表情をしていた。日本とロシアとの関係というと、どうしても領土問題などのイメージが強くなってしまいが、マトリョーシカやイクラなど、よく知っているものの背景にロシアと日本のつながりがあることは新鮮な発見となったようである。朝日新聞掲載の「ウラジオストク市、ビザ免除検討」の記事を配り(朝日新聞 2012d)、今後交流が深まる可能性のある地域だということを強調して授業を終了した。

数日後に生徒に「一連の学習を通してロシアについて新しく知ったことやイメージが変わった点」を書かせたところ、「ロシアのことは始めよく知らなくて身近に感じられなかったが、日本と関わっていることも多く、意外と身近だと分かった」「首都のモスクワがヨーロッパ側にあり、文化もヨーロッパよりの印象があったけれど、今回の学習を通してアジア風の文化も多かったり、また日本との関わりも多いのだなと感じた」などの意見があった。

おわりに

いずれの授業実践とも、日本とロシアのつながりについて教材を作成し、資料が少ない中でどのようにしたら近隣国の理解が進むのか試行錯誤しながら取り組んだ実践である。ここで取り上げた実践の基盤は、事前に打ち合わせたものではなく、各々の教員が海外研修を通じて見聞きしたロシア極東の現状である。

今回の学習を通して、世界の地域学習においてはただその地域の特色を解説するだけではなく、その地域と日本との結びつきをできるだけ多く発見し、それを授業に盛り込むことで、その地域への興味関心を高めるきっかけとなることを改めて実感した。国のイメージは日頃目に触れるニュースや映画などのメディアのみの情報に左右されがちであるが、実際に現地で見聞きしてきたこと、感じたことを伝達することで、生徒たちは多角的に地域を見ることができているのではないだろうか。

このような取り組みはロシアに限ったことではなく、地理的情報が少ない国・地域の教材作成に共通する。地理的情報が少ない国・地域を地理の授業で取り組むことは、地理教師にとって腕の見せどころでもある。生徒たちもつ固定的で画一的な観念から視野を広げるために、実際の国・地域を客観的資料に基づいて分析させ、理解させることが重要である。

以上のような授業実践を行うことができたきっかけは、地理分科会の海外研修であった。巡検、調査、旅行とその前後の情報収集によって地理教師の見聞が広がり、多様な地理的情報を探求させる授業実践を行うことができる。

注 1) 地理分科会ロシア海外研修の報告は、地理紀要29号(2012)に掲載。

参考文献

- 朝日新聞 2012a : シベリア鉄道復権、7月15日1面。
朝日新聞 2012b : 溶ける北極海、航路拡大、7月16日1面。
朝日新聞 2012c : 〈ニュースがわからん!〉ロシアでアジアの国際会議?、8月27日2面。
朝日新聞 2012d : ウラジオストク市、ビザ免除検討、10月27日1面。
白岩孝行 2011 : 『魚付林の地球環境学』昭和堂。
矢野恒太記念会編 2012 : 『日本国勢図会』国勢社。

私の教材紹介

お手軽プレゼンテーション — 表現力アップに向けて —

根元 一 幸 (県立座間高等学校)

はじめに

2013 (平成25) 年度から、新しい学習指導要領が実施される。文部科学省発行の『教員用パンフレット』¹⁾には、今回の学習指導要領改訂のポイントの一つとして、「思考力・判断力・表現力等の育成」があり、「思考力・判断力・表現力をはぐくむためには、観察・実験、レポートの作成、論述など知識・技能を活用する学習活動を発達の段階に応じて充実させる必要がある。」と書かれている。

この重要性は、以前から指摘されていたことである。表現力アップの一つの方法として、生徒によるプレゼンテーションがあげられる。筆者は、既に10年前の改訂の時、生徒がプレゼンテーションソフトを活用して地域研究のプレゼンテーションをする取り組みを紹介した²⁾。しかし、この方法は、パソコン環境と多くの時間を要し、受験を意識した盛りだくさんの授業内容を考えると、実施には、二の足を踏んでしまう。あまり、時間をかけずにお手軽にプレゼンテーションができないものかと考え、編み出したのがこれから紹介する方法である。

1. A4用紙1枚でプレゼンテーション

プレゼンテーションソフトを用いたプレゼンでは、①1人1台のパソコン環境が必要、②プレゼンの完成までに数時間以上の時間を要し、作成スピードの個人差が大きいという課題がある。①については、パソコン導入当初は、パソコン室は空き部屋同然で自由に使えたが、教科「情報」の必修化以降は、使える時間が極端に少なくなった。②については、2単位の地理Aで、内容的には地理Bのボリュームを追求しているため、プレゼンに割く時間はほとんど無い。

そこで、近年は、①パソコンを使わず (もちろん提出物作成に使いたい生徒はOKとする)、②授業を割く時間は2時間+ α というプレゼンテーションを実施している。そのポイントは、提出物が1人につきA4用紙1枚だけ、これをスキャナーで連続取り込みし、スクリーンで大きく提示して、この画面を使って生徒がプレゼ

ンをするというものである。

現在は、座間高校の1年地理Aで実施しているが、前任校の相模大野高校の2年地理Aの発表例も交えて紹介する。座間高校では、「世界の諸地域研究」というタイトルで、授業で扱いきれない地誌の部分を40分割し、抽選であたったページの内容をテーマとして研究するスタイルを取っている。相模大野高校では、担当年度の修学旅行先がシンガポールだったので、「東南アジア研究」というタイトルで、修学旅行の事前学習も兼ねて課題を出した。

2. プレゼンテーション実施の流れ

プレゼン提出物作成のために授業時間が割けないので、夏休みの課題として「地域研究」を行っている。①夏休み前最後の授業で、要項を説明し、②夏休み明けにプレゼンテーションシート提出、③提出物をスキャナーで画像取り込みして、④9月の授業でプレゼンテーションを行い、⑤生徒評価と教員評価をマークシートで集計して全体評価に加えている。この流れに沿って、実施のポイントを記述しよう。

① 要項説明

研究の方法としては、教科書、資料集、地図帳、本、インターネット等を活用して、プレゼンテーションシートをつくる。必ず自分でつくった図やグラフを入れることを条件とする。インターネットの画面のコピー貼り付けは、不可とする。また、タイトル・データの出典・年等を明示するよう指導している。

提出するプレゼンテーションシートは、A4横向き1枚で、手書きでも、パソコン (ワープロ、プレゼンソフト等) で作成しても可とし、「紙」で提出する。カラーで画面提示するので、当然カラー使用可とするが、色の濃さに注意するように指示している。これは、色が薄いとプロジェクターが明るすぎて、色の差が見えない場合があるためである。同様に、手書きの場合は薄い鉛筆書きは文字が読みにくくなるので、ペン使用を勧めている。その他作成見本を提示して、シート作成上の注意を与えている (図1)。

書き方の注意点 紙は横向き、文字は大きく濃く
手書きはペン使用鉛筆不可
上にタイトル(ページも入れる) ここに年組番氏名

教科書の図等を説明
したい時は「参照」を

濃すぎる色は出ない
薄すぎる色は出ない
カラフル活用はだし
濃すぎる色は出ない
薄すぎる色は出ない

第1章 世界の生活を取りまき 環境 ②世界の産業の分布と変化
③世界の言語と宗教 (p.74-75) 1年0組00番 〇〇〇〇
作友例

世界の3大宗教
キリスト教: p.75の地図参照
北教 プロテスタント 東教
西教 カトリック 東方正教
イスラム教 イラン
シナ系 シーア派
北アフリカ・西アジア
仏教 上座仏教: 大乘仏教
東南アジア: 東アジア

図1 世界の宗教人口 (2009年)
キリスト教 33%
イスラム教 24%
その他 24%
ヒンドウー教 7%
仏教 13%

ヒンドウー教が、3大宗教に入らないワケ
ヒンドウー教徒とヒンドウー世界的広がりがない

必ず自作の地図やグラフを入れる 注! 切り貼り不可
注意: タイトル・データの出典・年等を明示、表は図とは言わない

図1 シート見本と書き方の注意

第2章 世界の諸地域の生活・文化と環境
③西アジア・北アフリカの暮らしを学び
1 乾燥地域の伝統的生活 (P.88)

年組番

砂漠化地域の割合 (1991年) 環境と社会問題 [地球砂漠化]より

サハラ砂漠
アラビア半島の砂漠

遊牧民として厳しい
自然の中で生きる

オアシス 小麦・ナツメヤシ・野菜などを栽培
人口の地下水路で塩分の少ない水をGet!!

37%
29%
12%
7%
3%

- アジア
- アフリカ
- 北アメリカ
- オーストラリア
- 南アメリカ
- ヨーロッパ

図3 パソコン使用の作品例 (座間高)

第3章 近隣諸国の生活・文化と日本の関係 ①中国の暮らしと日本との関係を学び
2. 自然と農業の地域性、改革・開放と農村の変化

中国の降水量
平均降水量 約 650 mm
南西部 1,500 mm 以上
北西部 100~200 mm

改革・開放
↓
生産責任制

農業区分 10に分れる
小麦 綿花 大豆
油菜 水稻 糸織物

米青果精細作 (万元戸)
組産真企業

図2 手書きの作品例 (座間高)

おいしい! シンガポールの"食"

①. どんな食生活?
商業都市
↓
仕事に明けくれる
↓
時間がゆたか! 外食!
↓
ホーカズ
↓
屋台村 1食 3~5\$

②. どんな料理がある?
中華
マポロワフ
シンガポール
インド
チキン
フランクフルト
カレー
マレー
チキンカレー
チキンカレー

出典: 中国の地理情報 <http://www.kaiyuan.com/index.html> / Wikipedia

図4 訪問先の"食"研究 (相模大野高)

② プレゼンテーションシート
プレゼンテーションシートの提出は、夏休み明け最初の授業とし、再提出・やり直しは認めていない。これは、とりあえず提出しておいて、発表直前に差し替えをを求める生徒がかつていたためである。

提出されたプレゼンテーションシートは、A4用紙1枚で表現するため、エッセンスが凝縮されている。図2・3は座間高校、図4・5は相模大野高校の例である。座間高は、担当箇所が指定であるが、相模大野高では、修学旅行を控えての研究であったので、図4のように、衣や食の生活に密着したテーマが多かった。東南アジアの観光についての研究も多かったが、一定数は、図5のような社会問題を研究した生徒もいた。

手書き (図2・4・5) かパソコン利用 (図3) かでは、年によってばらつきがあるが、半々か手書きの方が多いという印象である。グラフを表計算ソフトを用いてつくる生徒も多いが、

フィリピンの社会問題

1 フィリピンの急速な経済発展
1990~2000年 267,300
1980~1990年 37,700

2 都市化が生える貧困
ストリートチルドレンの3つのカテゴリー
① 路上で働く子供
② 路上で暮らす子供
③ 捨て子

3 ストリートチルドレン事情
《借金 長時間労働》
《肉体暴力 不当な逮捕》
《危険 搾取》

4 問題解決へ動く人々
多くのNGOが活動している。
・国境なき子供たち (K&K)
・Caring for the Future Foundation (CFF)

YES 72%
NO 28%

出典: 国際労働機関 (ILO)

図5 社会問題に着目した例 (相模大野高)

なかなか使いこなす域には達していない。ここに例示しているものは、当然出来映えの良い作品であるが、中には、プレゼンテーションシートとして問題があるものも多い。何も指示しなければ、次のような例が続出する。

まず、文章でだらだらと書いて (打って) あるシート。話す内容がそのまま文章で書いてある。中には、Wikipediaの丸写しと思われるも

のもある。初期には、これをそのまま読んで終わりという生徒もいた。これは、プレゼンテーションとしては失格である。文章で表示された画面は、見る気にならないし、読んでもらえない。ポイントとなるキーワードを矢印などでつなぎ、これを言葉で補いながら筋道立てて説明することが大切である。

次に、文字がとても小さなシート。これは、パソコンでつくってくる生徒に特に多い。初期設定の10.5ポイントなどの大きさで、文字を打ってしまうために、少し離れると何が書いてあるのかわからない。もっともこの点については、講演会などでもよく目にする光景で、社会に出てこのような大人にならないために、今から教え込む必要がある。

さらに、自分でつくった図やグラフの意味がわかっていない生徒も多い。教科書に載っている地図をそのままの内容で手書きで写してくる。教科書の地図を使うにしても、自分が説明したい要素だけを取り出して図化してくれれば、まだましなのだが。図やグラフと指定しているのに、表をそのまま載せてくる生徒もいる。

このようなことは、毎年実施する中でこちらも学習してきた。最近では、要項説明の場面でいろいろと注意しているので、だいたいシートは改善されてきた。

③ 画像取り込み

提出されたプレゼンテーションシートは、色の濃いものや薄いものを使って、スキャナーの濃度調整をし、出席番号順に並べて一気に読み取りをする。使用している機器は、EPSONのES-H300で、ADF（自動給紙装置）がついており連続取り込みができる。設定をすれば1101のような連番で指定フォルダに画像を保存できるので、取り込み終了とともに、クラスのフォルダ内に出席番号順に40枚の画像ファイルができる。ADFで取り込む時に、紙詰まりが起これるので、紙の貼り込みは禁止している。

④ プレゼンテーション

発表会の期間は、9月の授業2回分をあてている。よって、発表時間は1人2分となる。もっとも、時間がとれば、3分4分と増やしたいところであるが、始めに書いた事情でこれ以上の時間は割けない。発表時間がわかるように、別のパソコンでタイマーを表示、2分でチャイム

が鳴るように設定してある。10年以上前から、フリーソフトの「発表会用ベルタイマー」を用いているが、Windows 7の現在でも問題なく動いている（写真1）。



写真1 タイマーを用意

発表方法は、クラスの一覧から自分のシートを開き、スクリーンに投影されたシートを使ってプレゼンテーションをするもので、普通の授業がプレゼン型のため、前に立つのが教員でなく生徒に変わっただけである（写真2）。



写真2 教室のレイアウト

プレゼンテーションの注意事項として、原稿の読み上げは不可（メモのチラ見は可）、画面の指示出しをしつつ、聴衆に向かって話すことを事前に徹底する。普通の授業を参考にして、自分が伝えたいことを、聴き手に伝わるような工夫をするように求めている。そのためには、時間の調整を含め、発表の練習が必要であることを強調する。当日は、緊張してうまく話せない生徒もいるが、きちんと練習してきた生徒は、普通の受け身の授業ではみられない、積極的なプレゼンをする生徒も多い（写真3）。全員の発

1年地理A 夏課題 「世界の諸地域研究」 評価用紙 by NEMO 2012				↓シート無しは○を塗る			
連番	項目	ページ	ID	氏名	①関心・意欲・ 態度<やる気> …意欲的な発表 だったか	②思考・判断 <展開>…言い たいことが伝わ る展開だったか	③技能・表現 <シート>…見やす く、印象が強いシ ートだったか
まず自分の氏名だけを——で消す！ 右にはみ出さない							
1	1 風潤熟帯の伝統的農業	80-81	1123	○○ ○○	① ② ③	① ② ③	① ② ③
2	2 重なり合う民族・文化、伝統と外来文化の中で	81-82	1139	×× ××	① ② ③	① ② ③	① ② ③
3	3 経済の急成長と人々の暮らし	82-83	1130	△△ △△	① ② ③	① ② ③	① ② ③
4	4 1「地域」としての南アジアの成立	84-85	1128	□□□□	① ② ③	① ② ③	① ② ③
5	5 農業と食生活の地域差	87	1199	△△ △△	① ② ③	① ② ③	① ② ③

図6 マークシート式の評価用紙

表終了後に、「プレゼンの極意は、その気が無い人をその気にさせるジャパネットたかたの社長に学べ。」という趣旨のコメントをする。



写真3 プレゼンテーションの様子

⑤ 評価

評価方法は、マークシート式の評価用紙を用いて、観点別評価をしている(図6)。生徒は、発表を見て聴いて、3観点について、3段階評価をする。すばやく判断できるように、観点①関心・意欲・態度は、<やる気>として、「意欲的な発表だったか」、観点②思考・判断は、<展開>として、「言いたいことが伝わる展開だったか」、観点③技能・表現は、<シート>として、「見やすく、印象が強いシートだったか」を判断基準としている。教員用は、観点の視点を細かくして5段階の評価をする。

評価後の用紙は、マークスキャンで読み取る。マークスキャンは、神奈川県立総合教育センターが開発したマーク読み取りソフトで、扱いがシンプルで、アンケート集計などに活躍する。サポートが終了し、センターのサイトからもダウンロードできないが、県立学校ならば、職場

のパソコンに入っているのではないかな。

配点は、生徒評価点として、各生徒の評価を観点①(1~3点)×2倍で6点、観点②(1~3点)×4倍で12点、観点③(0~3点)×4倍で12点の計30点満点とし、聴衆人数の平均点を出す。教員評価点として、観点①(1~5点)×2倍で10点、観点②(1~5点)×6倍で30点、観点③(0~5点)×6倍で30点の計70点満点とし、生徒評価の平均点を加えて100点満点分を学年成績に入れている。

おわりに

新学習指導要領『教員用パンフレット』¹⁾には、「教育内容に関するおもな改善事項」のひとつに「言語活動の充実」があり、「各教科等においては、国語科で培った能力を基本に言語活動を充実することの必要性を十分に理解し、言語活動を各教科等の指導計画に位置付け、授業の構成や進め方を改善する必要がある。」と書かれている。

「言語活動を指導計画に位置付け」というと大変なことのように思えるが、お手軽プレゼンで、表現力・発表力アップは間違いない。普段の授業では、発問の個別指名をする前に、「この問いに対して、近くの人たちと意見を出し合ってみよう」という働きかけをしている。クラスの差はあるものの、教室の各所で「ワイワイガヤガヤ」と話し合いが始まり、意見を出し合っている。あまり構えずにひと工夫することで、授業のレベルアップができるのではないかな。

参考文献

- 1) 文部科学省(2008):新学習指導要領・生きる力『教員用パンフレット』
- 2) 根元一幸(2003):地域研究—コンピュータを利用した地理的技能的習得—地理紀要第20号

夏季野外調査報告

渡良瀬川・利根川が紡いだ近代化

有野 洋 輔（フェリス女学院中学校・高等学校）

2012年度の夏季地理野外調査は、8月21日(火)～23日(木)に行われた。当野外調査は、日本の公害（鉱害）の原点といえる足尾銅山鉱毒事件の舞台を踏査できる非常に貴重な機会であった。

日本の近代化を先導し、その光と影が刻み込まれた土地を歩き、体全体で感じ、考えさせられたことを記させていただきたいと思う。

主な見学地は、次の通りである。

- 21日：富岡製糸場、桐生新町重要伝統的建造物群保存地区
- 22日：わたらせ渓谷鉄道（神戸駅～足尾駅）、松木溪谷、足尾歴史館、足尾銅山
- 23日：富士重工矢島工場見学、大泉町、田中正造記念館、渡良瀬遊水地

1. 富岡製糸場

午前11時半、初参加で緊張しつつJR高崎駅東口ロータリーに停車していたバスに乗り込み、15名の先生方と富岡製糸場に向かった。駅集合までの路線選択（新幹線、高崎線、八高線）にも個性が表れるようで興味深かった。ひたすら平地を西に進むと12時半に富岡製糸場に到着。

バスを降りた途端に、真夏の強烈な日差しと地面からの照り返しにたじろいだが、「門前町」のような風情漂う道を歩くこと数分で正門へ。

入口では立て看板の「祝世界遺産へ推薦決定！」の文字が目飛び込む。現在、私たちが訪れた富岡製糸場とは別の3つの養蚕施設も併せて世界遺産登録が目指されている。通風を重

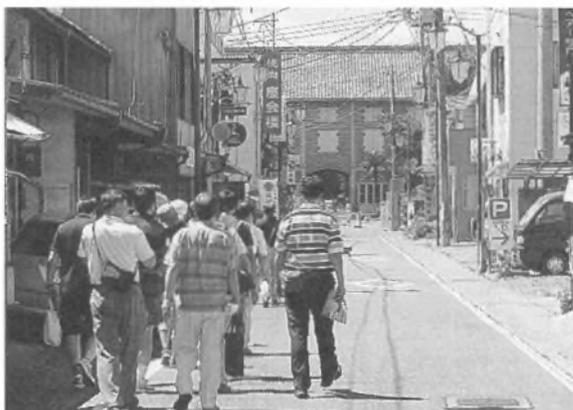


写真1 奥に見えるのが富岡製糸場の正門

視した蚕の飼育法「清涼育」とそれに温度管理を調和させた「清温育」が行われた2つの養蚕施設と、岩のすき間から吹き出す自然の冷風を利用した蚕種（蚕の卵）の貯蔵施設の計3つである。

私たちは、案内人の説明を聞きながら、レンガ造りの繭倉庫、生糸の検査人の館、女工館、繰糸場、展示室の順に歩いた。

富岡製糸場の創業は1872（明治5）年で、1987（昭和62）年まで115年間にわたって一貫して生糸生産が行われた。フランス人技師プリユナによって、300基のフランス製繰糸機（器）が設置され、創業当時は世界最大規模の生産力を誇った。手に収まるサイズの繭から、1,300mの生糸がとれたことには驚いた。繭から生糸をとる作業が行われた繰糸場内部には、屋根の上に蒸気抜き「越屋根」が取り付けられており、当時の工場内の「熱気」を想像した。



写真2 風と水を運んでくる関東山地

絹織物業のキーワードの1つは、「風」であると感じた。蚕の飼育にも、繭の長期保存（カビ発生防止）のためにも、そして、繰糸場の蒸気抜きのためにも、通風と乾燥が不可欠であることを知ったためである。最後に、富岡製糸場の南側の眼下約10mを流れる鏡（かぶら）川を眺めた。その上流（西方向）の関東山地から吹きつける群馬県特有の内陸性の「からっ風」が富岡の生糸づくりを支える一因であったことを肌で感じた。

2. 桐生新町重要伝統的建造物群保存地区

次に訪れたのは、富岡から東に進むこと約40km地点に位置し、かつて「西の西陣、東の桐生」と謳われた織物の一大産地の歴史的景観を有する桐生本町。これ以降、渡良瀬川水系を舞台に巡検は進んでいく。

午後3時、もともとは現在東側を流れる桐生川の河原だったという本町通りでバスを降り、「伝建まちなか交流館」の前で2グループに分かれ、案内をしていただいた。まず、420年前の古地図を開いて江戸時代に端を発する歴史を聞いた。「足尾の銅」「桐生の絹」「真岡の木綿」が最後まで江戸幕府を支えたという。本町通りの北端の微高地に位置する「天満宮」にむかって「ハの字」に軒を連ねる街並みは人と同じものが嫌いで目立ちたがりな桐生の町衆の気性を反映したものであるとの説明が面白かった。

本町の街区には、倉が数多く見られた。酒・味噌・醤油を醸造し保管した江戸時代から昭和時代にかけての11棟の蔵群からなる「有鄰館^{ゆうりん}」を抜け、のこぎり屋根が印象的な建造物群(ワイン工場、織物工場、工房など様々)の外観を眺めた。

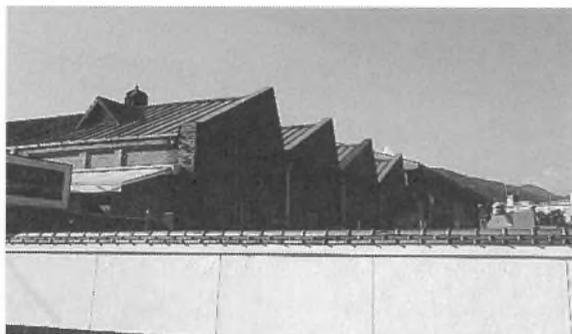


写真3 手作りパン工房「レンガ」
(旧金谷レース工場)

桐生に現存する唯一のレンガ造りののこぎり屋根工場で、現在はカフェとなっている「レンガ」で休憩をした。真夏の巡検の休憩時間にいただく冷えたジュースは「格別」だった。

そこから数分歩いて、1913(大正2)年の創業の織物工場へ。当初は帯を、現在は実に5,000種類以上の全国各地のお守り袋用生地を製織している工場であるが、中は通り抜けるのも一苦労なほど自動織機がひしめいていた。一度動き出すと、目にもとまらぬ速さで鮮やかな色の経糸・緯糸を織り込んでいく機械の力に驚いた。

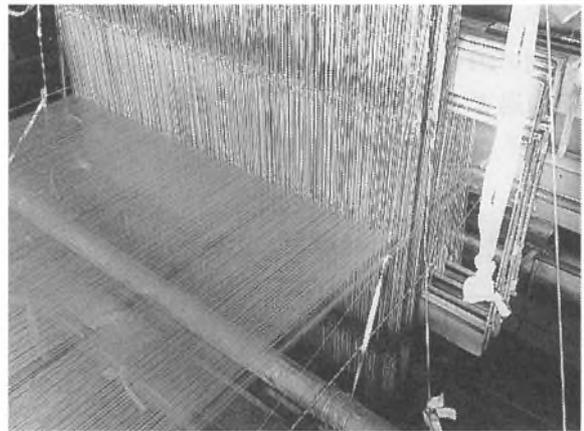


写真4 自動織機

疲れた体をバスに預けると、18時20分に「国民宿舎サンレイク草木」に到着。標高450mの南北に長い「草木湖」の右岸に位置する静かな山荘で、対岸には水彩の詩画を通して生命の尊さを語り続ける星野富弘氏の「富弘美術館」がある。夕食の会場と部屋で親睦を深めた後、各自温泉につかり翌日へ備えて就寝した。

3. わたらせ渓谷鉄道～松木渓谷

2日目は、バイク形式の朝食で英気を養い8時30分に神戸(ごうど)駅に向かって出発。現「わたらせ渓谷鉄道」が「足尾鉄道」として開通(桐生～間藤)したのは1912年のこと。100周年にあたる年に乗車でき、歴史的経路を実感した。わずか1車両であるが、カメラを構えて真夏の濃緑の山々を背に近づいてくる車両を待つ瞬間は、独特の緊張感を覚えた。



写真5 桐生駅発の銅色の車両

神戸駅(9時発)から上流の足尾駅までは約30分間の乗車。河川の上流であるため、河原には2～3mの真っ白の巨石が無数に散らばって

おり、河川の下刻作用も確認できた。草木湖の西側の山を南北に貫く5,242mの草木トンネルを通過すると、群馬県から栃木県に入る。すると、そこは「足尾銅山の世界」である。



写真6 足尾駅（標高640m）

足尾駅を出て、まず向かったのは足尾銅山の鉱毒の被害が甚だしかった「松木溪谷」（栃木県の中禅寺湖の南約5km地点）である。10時から、NPO法人「足尾に緑を育てる会」の協力を得て、夏季野外調査初の試みであるという植樹体験をさせていただいた。葉が大きく育ち、さかんに土壌を作るという「ミズナラ」の苗を斜面に植え、水を注ぎ、山を生き返らせてくれるようにと願いを込めた。35年前に同地を訪れた先生が、当時赤茶けた地肌が露出していた山に緑が戻ってきていることに驚かれていた。私は、足尾の「銅」とは異なり、足尾の「自然」は「再生可能資源」であることを実感した。



写真7 緑を取り戻しつつある松木溪谷（だが、未だ崩落箇所が散見される）

しかし、薪炭材のための伐採と煙害により一度完全に森林を失った山は、表土が降雨で容易に流出してしまうため、植林のためには「山腹基礎工」として木柵や土のうによる崖崩れを防ぐ人為的作業が必要であることは心に留めておかねばならないと思った。緑が勢いよく戻り始めたのはここ15年間とのことであり、それまで約100年間におよぶ無数の方々の血のにじむような努力があったことを胸に刻みたい。

11時40分にバスに乗り込み、松木溪谷を離れる私たちをニホンジカが見送ってくれた。シカの食害をふせぐ防護ネットが随所に見られたことを思い出した。いよいよ足尾銅山である。

4. 足尾銅山

昼食として「さんしょう家」で山椒の効いた鶏肉やつくねの定食をいただき、足尾銅山関連施設へ向かう。13時に、まず「足尾歴史館」を見学。1階には主に削岩機等の作業機械が展示され、2階には種々の銅鉱石、足尾銅山内部の仕組み、山間の土地にびっしりとうまった往時の社宅（通洞周辺）の展示パネルが並んでいた。



写真8 足尾銅山入場口

その後、現在は日光市が管理する足尾銅山へ。足尾銅山が発見されたのは1610（慶長15）年のことである。江戸幕府の管轄下におかれた時代をへて、1877（明治10）年、古河市兵衛が陸奥宗光の協力や渋沢栄一の資金援助を受けて銅山の開発にあたり、1887（明治20）年には日本産銅の40%を産出する日本一の銅山となった。

ひんやりとした全長700mの坑内を歩いていくと、当時の坑夫を模った数多くの人形が「採鉱」がいかに危険な作業であったかを伝えてくれた。驚いたのは、地下に進むほど気温は上が

る(100mにつき約3℃)という事実で、最深部である地下540m地点の「暑さ」を想像した。坑道の総延長は約1,200kmとのこと。1つの銅山の中にこれほどまでに重層的な地下空間が広がっているのかと衝撃を受けた。

坑道を抜ける直前、ガラス製の展示ケースに収められた「銅線」が目に入った。明治政府は欧米に銅を輸出して外貨を獲得していたが、現地では輸入した銅を「電線」としても使用していたことだろう。一昨年、東日本大震災とそれにもなう原発事故による計画停電で電気の大切さを思い知り、当時の欧米先進国や明治時代の日本で急速に進んだ「近代化」は「銅線を介した電化」とも言えるかもしれないと思った。

売店で足尾銅山みやげを買った後、古河鋳業が隆盛期の1899(明治32)年に建てた迎賓館「古河掛水倶楽部」と書籍・物品を収納した「掛水赤煉瓦倉庫」の外観を眺め、徒歩で「渡良瀬橋」へ。8世紀に日光山や中禅寺を開いた勝道上人の「渡るによい浅瀬である」との言葉に由来するとの説明文があったが、水面は橋から10m以上深く、1,000年以上の時の経過による侵食作用の跡がうかがわれた。

バスは、渡良瀬川の谷口を扇頂として広がる大間々扇状地を下り、扇端に位置する群馬県太田市の「東横イン」へ。渡良瀬川の最上流の松木溪谷から低平な平野部へ戻ってきたのを実感したのは、懇親会のお店へ向かう途中、太田市街の直線的かつ平らで幅の広い道路を歩いた時だった。こうして密度の濃い2日目終了した。

5. 富士重工業矢島工場



写真9 富士重工業(旧中島飛行機)製造の戦後初の国産ジェット機「T-1」(初鷹)

3日目目も快晴の天候に恵まれる。8時40分、宿泊地を出発すると、15分ほどで「SUBARU」の製造で有名な「富士重工業矢島工場」に到着。会社の説明を聞き、プレス工場、溶接工場の作業工程を見学した。工場内は思いのほか暑かった。歴代の代表車種とリサイクルの取り組みに関する展示を見た後、工場前の和菓子屋で「スバル最中」を購入し、昼食はブラジル文化の根づく大泉町の「ロデオグリル」にていただいた。

6. 田中正造記念館～渡良瀬遊水地

午後1時半に「田中正造記念館」に到着し、ビデオ映像と展示パネルで鉱毒事件の実態を勉強した。印象深かったのは、「真の文明は、山を荒さず、川を荒さず、村をやぶらず、人を殺さざるべし」という田中正造の日記(1912年)である。「予は下野の百姓なり」というように、当時の下野国(現在の栃木県佐野市)で生まれ育ったゆえ、そこから10km圏内にある「谷中村」

(渡良瀬遊水地建設にあたって強制撤去された450戸2,700人規模の村)を貯水池とするよりも、まず「操業停止」すべきと訴えたのは至極当然のことに思えた。

巡検の最終地は、その「渡良瀬遊水地」であった。2012年7月にラムサール条約湿地に登録され、展望台から四方八方に広がる本州最大のヨシ原を主体とする湿性草地を眺望できた。途中、旧谷中村の跡地に1~2mの「水塚」を確認することができ、洪水常襲地帯であったことがうかがわれた。

おわりに

高校時代から興味(と危機感)を有してきた環境(公害)問題の原点といえる足尾銅山に足を運ぶことができ、本当に良かった。渡良瀬川水系を舞台に繰り広げられた日本の近代化の一過程を考えさせられる貴重な巡検であった。次代を生きる生徒に、現地で感じたことを少しでも多く伝えられるよう努力していきたい。

末筆ではありますが、当巡検をご準備下さいました先生方に心より感謝申し上げます。初参加にも関わらず、暖かく迎えていただき誠に有難うございます。以上を、当巡検の報告とさせていただきます。

秋季野外調査報告

県央地区の商業について—厚木市と海老名市を事例に—

山本 大 (県立生田高等学校)

はじめに

2012年度の秋季野外調査は、12月6日(木)に神奈川県厚木市・海老名市を調査地としておこなわれた。移動・行程は以下の通りである。

【行程】

13:00本厚木駅集合→(徒歩移動)→厚木市商店会連合会→(徒歩移動)→旧厚木パークビル→(自由行動)→本厚木駅再集合→(電車移動)→海老名駅→ピナウォーク海老名視察→(徒歩移動)→海老名駅西口特定土地地区画整理準備組合→海老名駅・解散

1. 厚木市の商店街の移り変わりと現状

本厚木駅に集合した後、「一番街商店街」や「なかちょう大通り商店街」など厚木駅周辺の商店街を視察しつつ、「中央通り名店街」にある厚木市商店会連合会事務局まで徒歩移動した。駅から離れるにつれて、シャッターが閉められている店舗も見られるようになり、駅前の喧騒とは対照的に、少々寂しい感じを覚えざるを得なかった。

厚木はかつて、相模川を利用した河川交通の要衝として栄え、明治以降も相模国および神奈川県中央部における商業・交通の中心として発展し、商業地域が形成されていった。

昭和30年代には町村合併から厚木市が誕生し、相模大橋の架橋、市街地を東西に走る中学通りの拡張・国道移管がおこなわれた。これを契機として、市街地では全長300mにおよぶ防災共同ビルが建設され、名称も中学通りから中央通りへと改められ、これが「中央通り名店街」となった。

厚木市商店会連合会事務局では、本厚木駅周辺の商店街の現状や課題についてお話を伺った。厚木市は、住宅団地の開発による人口急増と本厚木駅周辺の小田急線高架化によって、新たな商業街区が形成され、1980年代以降、大規模小売店舗の出店が相次いだ。このため、小規模の小売店舗は減少傾向にあるが、バブル崩壊以後は、大規模小売店舗も売り上げ不振による撤退が増えていることから、連合会の方々は、

今後もし大規模小売店舗が厚木から撤退した場合、小売店舗が街から無くなってしまふことを危惧されていた。しかし、東名高速道路の厚木インター周辺にも郊外型大型店舗が進出するなど、商店街の空き店舗数は今も多い。連合会としては、地域経済の活力を維持し、地域住民の需要に対応していくためにも、厚木市と協力して様々な方策を講じており、若い人に無償で店舗を貸し出したり、厚木市の特産品を扱う店舗の出店を計画したりといった取り組みを進めているとのことであった。

2. あつぎ元気館(仮称)

お話を伺った後、「東町商栄会」のシャッター通りへと足を延ばした。この商店街では、閉じられた店舗のシャッター一枚一枚に江戸時代の商店が描かれており、通りを華やかに彩っていた。大いに賑わった「小江戸厚木」の風景を再現しようというこの作戦は、厚木の住民にとって自慢できる風景を作ってくれそうであるが、ぜひとも今後商店街が本来の賑わいを取り戻し、シャッターを開けた店が増えることを願いたい。



写真1 東町商栄会のシャッター通り

「東町商栄会」を後にし、次に「なかちょう大通り商店街」にある「あつぎ元気館(仮称)」へと向かった。これは、2008年に厚木パルコが撤退して取り残されていた建物を、公共施設の集約などを目的に厚木市が買い取ったものである。築後18年ということだが、まだまだ外装も

綺麗で、道路の向かい側にはイオンが位置していることから人通りも多く、今後「あつぎ元気館」の誕生が中心市街地ににぎわいを取り戻す起爆剤となることを期待したい。

この後は自由行動となり、本厚木駅へ再集合後、小田急線で海老名駅へと移動した。

3. ビナウォーク海老名

海老名駅到着後、まずは東口から直結しているビナウォーク海老名を見学した。小田急電鉄直営の複合商業施設として2002年に開業したビナウォークは、海老名中央公園（昭和60年開園）を取り囲むように作られており、公園の広場は、買い物客の休憩場所としてはもちろん、待ち合わせ場所や市民の憩いの場としても利用されているようであった。また、全6棟からなるショッピングモール内は、デザイン性が重視されたカラフルで入り組んだ構造となっていた。



写真2 ビナウォーク海老名

4. 海老名駅西口土地区画整理事業

巡検の最後は、「海老名駅西口土地区画整理準備組合」の事務所にお邪魔し、海老名駅西口の土地区画整理事業についてお話を伺った。ビナウォークに面する東口とは対照的に、JR相模線の海老名駅が位置する西口地域には田畑が広がっている。視察した際は、駅から500mほど離れたところに建つ日立とリコーのビルから、家路を急ぐサラリーマンが田畑の間の道を列を成して歩いている様子が印象的であった。

この地域は古くから市街化調整区域に指定されており、事業化の目途が経っていなかった。しかし、平成21年9月に区域の線引きが見直され、該当地域の地権者も9割以上が市街化区域

編入に対して同意したことから土地区画整理事業の準備がスタートした。「海老名駅西口土地区画整理準備組合」は、現在、本組合の設立に向けて、企業誘致活動や土地利用方法の検討などを行っている。なお、準備組合は、全地権者の中から選出された役員のほか、事業を委託された民間企業の職員から構成されている。また、事業費については、全体の約4割は海老名市からの助成金を充て、残りの約6割については、区画整理時に地権者から提供してもらった土地の一部を売却することで得られる資金の中から捻出予定とのことであった。



写真3 JR海老名駅西口からの眺望

西口地域の開発事業については、話自体は30年ほど前から出ていたが、地権者の賛同が得られず遅々として進展しなかった。それが近年になって急な前進を見せており、準備組合では、地権者の高齢化による農地活用継続意欲の低下が理由ではないかと推察されていた。このことから、海老名駅西口の開発事業は、住民の高齢化による地域変容の事例としても捉えることができるだろう。

おわりに

筆者は今年度大卒新採用の教員である。大学時代は日本各地へ調査・巡検へと出向いていたが、現在はなかなか機会を得ることができない。そのため、地理分科会での巡検は非常に貴重な時間となった。今回、厚木市商店会連合会と海老名駅西口土地区画整理準備組合の方々には、貴重なお時間を割いていただき興味深い大変お話を伺うことができました。この紙面を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

委員会報告

東京大学農学部附属二宮果樹園（中郡二宮町）

比佐隆三（県立二宮高等学校）

1. 長寿の里「二宮」

神奈川県西部に位置する中郡二宮町は、昔から「長寿の里」として知られてきた。1930（昭和5）年の国勢調査によると二宮町は隣の大磯町と並んで、神奈川県の他の市町村と比較すると65歳以上の高齢者の占める割合が高い傾向が見られ、1975（昭和50）年までの45年間もこの傾向が続いた。

新聞紙上に初めて掲載されたのは1934（昭和9）年1月の「横浜貿易新報（現在の神奈川新聞）」だった。「日本一の長寿村」という大きな見出しに続き、冬は暖かくて夏は涼しい海洋性気候に恵まれ、海や山の幸を食する村民の生活習慣が詳細に書かれていた（当時は吾妻村で、昭和10年に二宮町となる）。

現在でも二宮町には老人ホームなどの施設が多く存在し、地域の高齢者がボランティア活動（清掃や交通安全指導など）を活発に行う自治体として知られている。



写真1 風光明媚な二宮町・吾妻山
（写真はいずれも2005年1月撮影）

2. 別荘から果樹園へ

1902（明治35）年4月にJR東海道線の二宮駅が開業すると、この恵まれた気候風土に惹かれて東京方面から政界・官界・財界などの上流階級の名士らが相次いで海辺を中心に別荘を構えていく。すでに隣接する大磯町には伊藤博文（初代総理大臣）らの別荘が形成され、その延

長線上に拡大していった。

別荘所有者には5・15事件の凶弾に倒れた犬養毅首相、三菱銀行の山川捨次郎頭取、九州の肥前藩藩主の子孫である松浦厚男爵、日露戦争で活躍した陸軍の奥大将などが名前を連ねていた。また、欧米人の別荘も数軒ほど存在して海岸沿いの別荘地は落ち着いた地域を形成していた。



写真2 別荘当時の庭園の跡

それらの別荘の中に第十五銀行（三井住友銀行の前身の一つ）の頭取だった薩摩藩出身の園田孝吉男爵が所有する別荘が二宮町中里（当時は吾妻村中里）にあった。

1919（大正8）年2月に東京帝国大学（東京大学）農学部が、この別荘を買収して開園したのが「東京大学農学部附属二宮果樹園」である。東京大学が二宮を選んだ理由は次の3点である。

- ① 二宮町は日本の栽培限界のミカンの北限、リンゴの南限に位置していた
 - ② 東京からの距離が約70kmと比較的近かった
 - ③ 当時は人口が少なく、落ち着いた地域だった
- この買収に先立つ11年前の1908（明治41）年4月、神奈川県立園芸試験場（現在は二宮町生涯学習センターのラディアン）が二宮町二宮に開設され、園芸農業を研究する中心拠点として優れた実績や成果を挙げていたことも影響していると推測されている。



写真3 二宮果樹園の看板

3. 二宮町の憩いの場所として

東大の二宮果樹園は約4haの土地にミカン・リンゴ・ブドウ・ナシ・カキなどの果樹林が栽培されており、他には研究棟・実習所・宿泊所・倉庫・車庫などが建っている。毎年、秋になると農学部の学生たちが泊まり込みで2週間の農業実習を自炊しながら行い、教室の講義だけでなく土にまみれて汗を流すという貴重な体験をしている。



写真4 2005年当時の宿泊所

普段は地元の住民にも開放されて見学や観察を自由に行うことが許可され、四季折々の植物を眺めたり、観察したり、スケッチしたりする人々が多かった。最近では小・中学生たちが体験学習で訪れ、果樹の摘み取り作業をして土に親しむ大切な場所としての役割も担っていた。

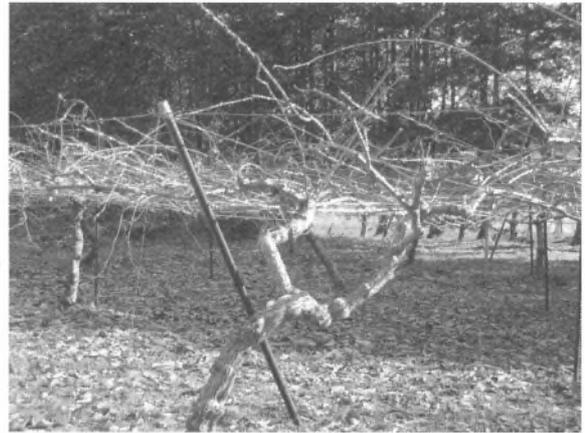


写真5 果樹園の様子

4. 多摩農場に移転

しかし、長い間地元にも愛されてきたこの施設は残念ながら2008（平成20）年3月をもって閉園となり、職員や機材などは東京都西東京市田無にある「東京大学多摩農場」へ移転して統合された。閉鎖した理由は2004年に国立大学が独立行政法人へ移行し、人と施設の効率的運営を行って維持運営費を節約するためであるという。

移転後にこの土地を二宮町が2012年に4億5千万円で買い取り、町議会も同意している。将来の跡地利用は、今後住民の意見を幅広く聞いて詰めていく方針である。現在は公園や住宅などの計画が取りざたされている。

約一世紀近くも二宮町の貴重な緑のオープン・スペースとして親しまれてきた果樹園の行く末を住民たちは大いに注目している。

（2012年8月7日作成）

委員会報告

県下一斉テストの作問方針と2012年度の問題について

磯崎 厚 (県立厚木高等学校)

はじめに

今年度も県一斉テストを作成・実施することができた。今回もさまざまな学習状況の生徒を想定し、基本的なものから発展的なものまでを含む大問7問を、B5判10ページにおさめた。出題分野と地域は後述の通りで、限られたスペースではあるが、できるかぎり資料等を利用して、知識だけではなく思考力や資料活用能力を問う問題の作成につとめた。

1. テーマ問題：資源・エネルギー（全地域）

東日本大震災にともなって注目される、自然環境を活かした再生可能エネルギーについての問題。

問1：② 世界の石炭産出量の半数以上(2009年)を占める中国が①、石炭に乏しく発電量の約80%が水力であるブラジルが③、オイルショックを契機に原子力発電を推進し依存度も高いフランスが④。

問2：〔設問1〕② 地熱発電はおもに火山活動の活発な地域で行われている。日本の火山地域は国立・国定公園となっているところが多く、地熱発電の開発が難しかったが、東日本大震災を機に規制緩和が行われた。〔設問2〕③ フィリピンは火山活動が活発な新期造山帯にある。

問3：化石

問4：① 石炭は古期造山帯で多く産出され、輸出量はオーストラリアがもっとも多い。石油はペルシャ湾岸からの輸出が多く鉄鉱石は安定陸塊で多く産出され、輸出量はオーストラリアがもっとも多い。輸出量2位のブラジルの石炭産出量は少ない。

問5〔設問1〕④ 風力発電の設備容量は、ドイツを抜いたアメリカ合衆国が1位であったが、近年中国の増加が著しく、2011年では、中国26.3%、アメリカ合衆国19.7%、ドイツ12.2%、スペイン9.1% (Global Wind Statistics 2011)。〔設問2〕② 〔設問3〕② 生産量1位はアメリカ合衆国。〔設問4〕④ 主原料は、ブラジルはサトウキビ、アメリカ合衆国はトウモロコシ。

問6：① 採取技術の進歩により開発が進み、アメリカ合衆国などでは新たな天然ガス資源として注目されている。

2. 地誌（ヨーロッパ）

オリンピックは世界の国々への関心が高まる機会であり、今年度もロンドンオリンピックを題材に出題した。

問1：④

問2：① ロンドンは西岸海洋性気候である。東京は温暖湿潤気候で④、ローマは地中海性気候で③、モスクワは冷帯湿潤気候で②

問3：③ 北緯30度はカイロ付近、北緯40度はタラント湾、北緯60度はオスロ付近。

問4：フィヨルド 氷河が侵食してできたU字谷が沈水して形成。

問5：③ ギリシャ

問6：② 1995年にEU加盟。①1979年、国連ヨーロッパ経済委員会により長距離越境大気汚染条約が締結された。④通貨はクローナを使用。なおノーベル賞の賞金の通貨もクローナ。

問7：③

問8：② イギリスの国会議事堂として使用されているウェストミンスター宮殿は、ウェストミンスター寺院・聖マーガレット教会とともに世界遺産に登録されている。

問9：イ アはローヌ川、ウはエルベ川、エはドナウ川

問10：① 果実類28%、野菜類22%、肉類207%、牛乳・乳製品155% (試算・『食料需給表』)

3. 地形図を利用した問題

基本的な読図を中心にして、地域の産業などを考えさせる問題とした。地形図は1：25,000「竹富島」。島民は、「竹富島憲章」を制定するなどして、島の伝統文化や自然を守ってきた。

問1：②

問2：②

問3：④ 竹富島には駐在所等はない。

問4：④ 養殖場ではクルマエビが養殖され

ている。竹富島では養蚕も行われる。

問5：③ 記号は「隠頭岩（いんけんがん）」で、干潮時には水面上に現れ、満潮時には水面下に没してしまう岩を示す。

問6：① 記号は「ヤシ科樹林」を示す。

問7：② ①海岸に崖の記号はみられない。③村落は中心部に集中している。④人口動態は判読できない。なお33.1メートルと記された三角点は簡易水道施設の高架タンク屋上に設置されている。

問8：③ 赤瓦葺の屋根が特徴的である。①は東山ひがし（ひがし茶屋街）（金沢市）、②は白川郷（岐阜県白川村）で、竹富島（②の農村集落）とともに重要伝統的建造物群保存地区に指定されている。④はノコギリ屋根工場（桐生市）。

問9：② 「竹富島伝統的建造物保存地区」や港の「ビジターセンター」などから判断。①田の記号は見られない、③大規模な畑や製糖工場はみられない、④採石場やセメント工場はみられない。

問10：②

4. 民族と生活（アフリカ）

現在のアフリカが抱える課題について考える糸口となるよう、アフリカの農業・宗教など一般的な問題に加え人口・識字率などの資料を使った問題を作成した。

問1〔設問1〕① ②Fのスーダンには地中海性気候はみられない。③いずれも石油の産出はあるが、モロッコなどでは「経済を支え」るほどではない。④モロッコの大部分とアルジェリア・チュニジア、リビアの一部はフランス、リビアの大部分はイタリアの植民地だった。〔設問2〕③ 宗教はイスラム教。〔設問3〕① 平均寿命が最長である①がヨーロッパ。石油の輸出などにより経済力がある北アフリカが②、エイズなどにより平均寿命が短縮に転じている③が南アフリカ

問2：③ サハラ砂漠の位置などに注目。赤道はギニア湾を通る。

問3：② 小麦は比較的乾燥に強く高温には不適で、地中海沿岸で冬に栽培。最も乾燥に強いソルガム・トウジンビエがサハラ砂漠周辺、高温・多雨を好むヤマイモはギニア湾沿岸地方

で栽培。

問4：④ 睡眠病はツェツェバエ、黄熱病は熱帯シマカなどが媒介。コレラは汚染された水や食物から感染。

問5：④ 資料の読み取り問題。女性の識字率の向上は乳児死亡率の低下などに有効であるとされる。なお、2012年は「国連識字の10年」の最終年。

問6：③ ①・③は砂漠気候の地域で大部分は農業に不適、②は熱帯雨林気候で遊牧には不適。問7：① 問8：② 南スーダンを示す。

5. 産業と生活（東アジア）

目覚ましい経済発展をとげ、世界の経済などで影響力を増した中国の地誌を中心にして出題した。

問1：③ 日本付近の季節風の風向は、夏は南東、冬は北西。

問2：① なお、現在は中国東北地方でも稲作が行われる。

問3：② モンゴルの国土の多くはステップの草原。

問4：④ イスラム教の割合がもっとも大きいのがマレーシア。①大韓民国、②タイ、③フィリピン。

問5：④ 自治区の数の変化はない。

問6：① 人名・地名を含めてハングルが広く使われる。

問7：① ②アメリカ合衆国、③日本、④大韓民国。1980年に日本は首位になったが、1994年から再びアメリカ合衆国が首位になった。その後中国の急速な経済成長に伴う需要の増加で中国の生産台数が急上昇し、現在のところ首位となっている。

問8：③ グラフの読み取り問題。かつてASEAN最大の貿易相手国・地域は日本であったが、現在はASEANが4分の1を占めるようになり、また中国が2位となった。

問9：B 世界最高所を走る鉄道といわれる。ラサの標高は3,650m。

問10：経済特区 他はチューハイ（珠海）・スワトウ（汕頭）・アモイ（廈門）・ハイナン（海南）省。

6. 自然環境 (全地域)

世界の地形・気候等の自然環境について、基礎的な事項を幅広く出題した。

問1〔設問1〕イ グラフは冷帯冬季少雨気候。ア・ウ・エは温帯である。〔設問2〕④
〔設問3〕D Aは千島海流、Bはカリフォルニア海流、Cはペルー海流、Dは湾流(メキシコ湾流)。一般に暖流は低緯度から高緯度に向かう。

問2：③ 赤道付近にあり、熱帯雨林が広がる地域である。①はサバナ、④はタイガ。

問3〔設問1〕③ グレートディヴィアディング山脈は古期造山帯。〔設問2〕③ Xのナイル川は外来河川の代表例である。Yのメコン川は高山地域の上流部を除き湿潤地域を流れる。

問4：② 高温かつ湿度の高い地域で、高床式にすることにより床下の風通しをよくしている。

問5：① 淡水湖で、周辺は冷帯気候である。

問6：エルニーニョ現象 問7：② 日本海側の豪雪地帯などでは冬の降水量のほうが多い。

7. 地誌 (北アメリカ)

アメリカ合衆国の「大陸横断」をテーマとした地誌。なお、国道66号線はいくつかの州間高速道路によって置き換えられ、廃線となった。

問1：③ この付近はトウモロコシ地帯である。

問2：① 西にロッキー山脈などの大山脈がある。標高にも注意。以下の地名はおよその位置を示す。②ダカール-アジスアベバ、③カーナーヴォン-モランバ(オーストラリア)、④リマ-アマゾン川河口

問3：①

問4〔設問1〕d 河口の位置や南北方向の州境から判断。〔設問2〕②

問5：④ センターピボット方式の灌漑が行われている。図はタウンシップ制にもとづく農地であり、円の直径は約800mである。

問6：② 東部・中部・山岳部・太平洋の4つの標準時があり、シカゴは中部・サンフランシスコは太平洋標準時を使用。

問7：③ ▲は航空機産業(シアトルやサンベルトの各地)、●は自動車工業(デトロイト・カンザスシティなど)、■は鉄鋼業を示す。

問8：③ 他と比べて「アジア系」の割合が高い州は西海岸に、「黒人」の割合が高い州は南部に多い。

問9：④ ①プレートの「ずれる境界」、サンアンドレアス断層が存在、②周辺はTornado Alleyと呼ばれる竜巻が発生する頻度の高い地域、③2005年のハリケーン「カトリーナ」の被害などが知られる。

資料 2012 (平成24) 年度県下一斉テスト問題

【1】 次の文を読み、問いに番号で答えよ。(ただし、問3は適語を答えよ。)

昨年の東日本大震災で大きな被害を受けた日本は、いくつかの島弧からできている。島弧とは、海洋プレートが大陸プレートの下に沈み込んでいく地域で、その摩擦によるマグマ活動によって生じた弓なりの火山列島をいう。この島弧は地震と火山の頻発地域で常に災害と隣り合わせにある。しかし、逆に考えれば島弧には a エネルギー が豊富に蓄えられているといえる。東京電力福島第一原子力発電所の事故後、再生可能エネルギーが注目されている。その一つは地球の熱で電気をつくる b 地熱発電 である。地球内部では深度が大きくなるほど温度が高くなる。そこで地上から地下にパイプを通すと水蒸気が吹き出してくる。この力を使ってタービンを回して発電する。また、島弧を流れる河川は急流が多く水力発電も各地で行われている。しかし、日本のエネルギー自給率は原子力発電を除くとわずか4%で、エネルギー源の80%以上を石油や石炭、天然ガスなどの ア 燃料が占め、その c ほとんどを輸入に頼っている状況 である。こうした中、先にあげた地熱発電のような枯渇することのない自然の力で電気を生み出す d 再生可能エネルギー が注目されている。このエネルギーが普及すれば、発電時にほとんどCO₂が発生しないため、地球温暖化の防止にも大きく貢献できる。政府も原発事故を踏まえて自然の力で電気を作ろうと考えているが、当面の電力需要を乗り切るため、福井県の大飯原子力発電所の再稼働を認めた。

問1 下線部aに関し、表1は、世界の4か国(日本、中国、フランス、ブラジル)の一次エネルギー供給の構成(2008年、%)を示したものである。日本は①～④のどれか。

	①	②	③	④
石炭	66.4	22.9	5.5	4.8
石油	17.2	43.2	38.5	31.2
天然ガス	3.2	16.9	8.5	15.0
原子力	0.8	13.6	1.5	43.0
水力	2.4	1.3	12.8	2.1
地熱・風力など	0.3	0.7	0.1	0.3
CRW	9.6	1.4	31.6	5.2

注1) 一次エネルギーとは自然界から供給される原料、または自然現象そのものから得られるエネルギー。

注2) CRWとは、薪、炭、バイオエタノール、農産物の残留物など。

『世界国勢図会 2011/12年版』による

問2 下線部bに関し、次の設問に答えよ。

〔設問1〕地熱発電に関する文として適切でないものはどれか。

- ①地熱発電は、プレートの境界付近で行われることが多い。
- ②地熱発電は、安定陸塊や古期造山帯付近で行われることが多い。
- ③ニュージーランドでは早くから地熱発電が行われている。
- ④日本の地熱発電は、山岳地帯で国立・国定公園付近で行われるものが多い。

〔設問2〕表2は、世界の地熱発電の設備容量（2008年）を示している。【 X 】に最も適切な国はどれか。

- ①イギリス ②オーストラリア
③フィリピン ④エジプト

問3 文中の「ア」に最も適切な語句を漢字2字で答えよ。

問4 下線部cに関し、図1～3は世界のエネルギー・鉱産資源の供給ルートを示している。最も適切な組合せは次のどれか。

表2

国名	
1位	アメリカ合衆国
2位	【 X 】
3位	メキシコ
4位	インドネシア
5位	イタリア

図1

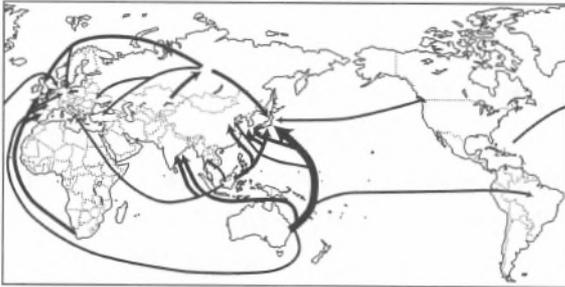


図2

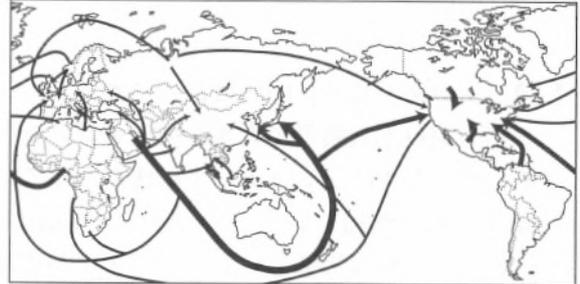
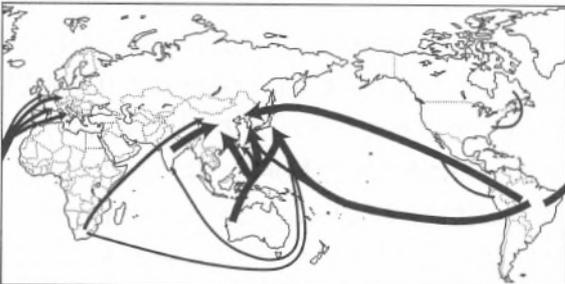


図3



	①	②	③	④
図1	石炭	石炭	石油	鉄鉱石
図2	石油	鉄鉱石	石炭	石油
図3	鉄鉱石	石油	鉄鉱石	石炭

問5 下線部dに関し、次の設問に答えよ。

〔設問1〕自然の力を利用した発電として注目されている風力発電は日本だけでなく、世界の国々でも導入が進んでいる。次の中で風力発電量（2011年）が世界第1位と第2位の国の組合せはどれか。

- ①ロシア・日本 ②デンマーク・オランダ
③スペイン・ドイツ ④中国・アメリカ合衆国

〔設問2〕太陽光発電に関する文として、適切でないものはどれか。

- ①夏の日照時間が長い地域が適している。
②北半球では屋根の北面に設置するのが望ましい。
③日本では、太陽光発電などを普及させるため、電力会社が電力を買い取る制度ができた。
④太陽電池パネルの生産量が増加し、パネルの製造コストが低下した。

〔設問3〕バイオエタノールについて、生産量世界第2位、輸出货量世界第1位の国（2008年）はどれか。

- ①アメリカ合衆国 ②ブラジル ③カナダ ④インド

〔設問4〕バイオエタノールの原料として実用化されている作物の最も適切な組合せはどれか。

- ①ナツメヤシ・コーヒー ②トウモロコシ・ナツメヤシ
③コーヒー・サトウキビ ④サトウキビ・トウモロコシ

問6 世界のエネルギー勢力図を塗りかえることになるかと注目されている、泥土が堆積して固まった頁岩の割れ目にたまっている天然ガスはどれか。

- ①シェールガス ②石炭ガス ③フロンガス ④炭酸ガス

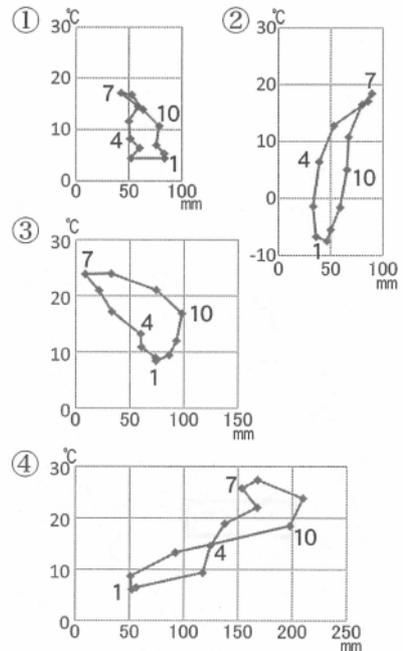
【2】 次の文章を読み、地図を見て、問いに記号で答えよ。(ただし、問4は適語を答えよ。)

今年の大きな話題の一つとして、a イギリスのb ロンドンで開かれたc オリンピックでの日本選手団の活躍があるだろう。様々な競技の中でサッカーは男女とも大きな盛り上がりを見せた。ヨーロッパの国々との対戦をふりかえると、女子はd スウェーデンとは引き分けたが、フランスには勝利をおさめ、男子はe スペインから奇跡的な勝利をあげることができた。日本からも多くのサポーターがヨーロッパに向かったが、オリンピック以外でもf ヨーロッパを訪れる観光客は多い。またヨーロッパ地域内もg さまざまな交通機関で結びついて交流がさかんで、h 各国の特色を活かした産物も、ヨーロッパ地域内で広く流通している。

問1 下線部aに関し、イギリスは4つの国から構成されていることはよく知られているが、このうち地図中Aで示した国はどれか。

- ①北アイルランド ②イングランド
- ③ウェールズ ④スコットランド

問2 下線部bに関し、ロンドンの気候をあらわしたハイサーグラフは、右のどれか。他は東京・ローマ・モスクワのものを示している。



『データブック オブ・ザ・ワールド 2012年版』による

問3 イギリス南端を通る、地図中Xで示した緯線は、日本付近では樺太(サハリン)中部を通るが、この緯線の緯度は何度か。

- ①北緯30度 ②北緯40度 ③北緯50度 ④北緯60度

問4 地図中Yの地域でみられる、氷河により形成された細長い湾を何というか。

問5 下線部cに関し、オリンピックの発祥地として知られ、最近では財政赤字からヨーロッパ経済の混乱を招いている国は地図中①～④のどれか。

問6 下線部dに関し、地図中Bで示したスウェーデンと周辺の国々やEUとのかわりについて述べた説明文として、適切でないものはどれか。

- ①森林や湖沼にみられる酸性雨の被害は、主として周辺諸国からの硫黄酸化物などの流入による。
- ②EUにはヨーロッパ共同体(EC)結成当時から加盟している。
- ③多くのEU加盟国との行き来ではパスポートのチェックが不要である。
- ④EUの通貨であるユーロは導入しておらず、独自の通貨を用いている。

問7 下線部eに関し、地図中Cで示したスペインでもっとも多く使われる言語の種類と、もっとも多く信仰されている宗教との組合せで、適切なものはどれか。

- ①ゲルマン語派・カトリック ②ゲルマン語派・プロテスタント
- ③ラテン語派・カトリック ④ラテン語派・プロテスタント

問8 下線部fに関し、ヨーロッパの観光地として有名な世界遺産と国の組合せが適切でないものはどれか。

- ①アルタミラ洞窟・スペイン ②ウェストミンスター宮殿・ドイツ
- ③ピサの斜塔・イタリア ④モンサンミッシェル・フランス

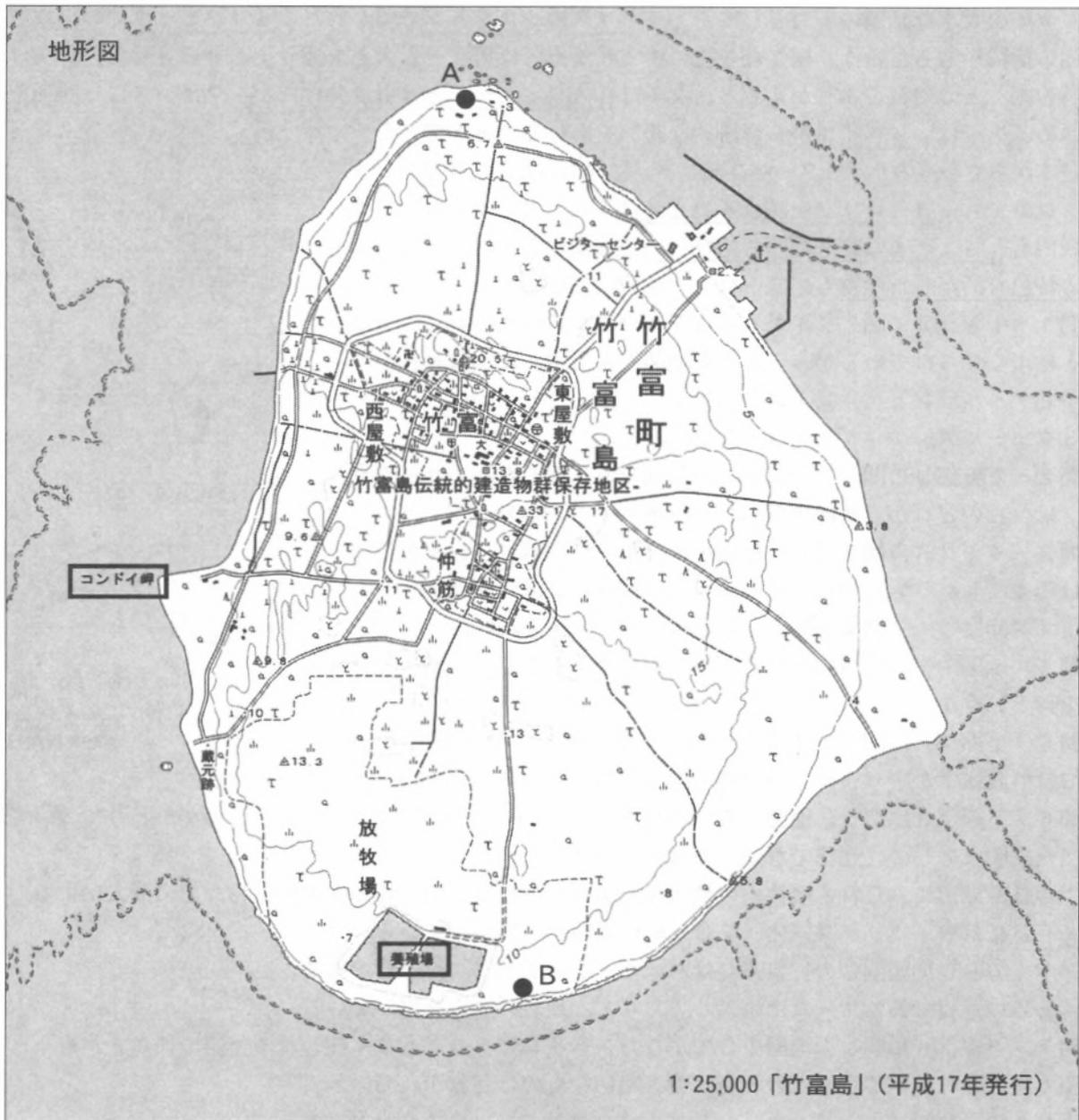
問9 下線部gに関し、ヨーロッパでは河川も主要な交通路だが、ライン川は地図中ア～エのどれか。

問10 下線部hに関し、ヨーロッパ各地では農業も地域の特色を活かすことで、農産物の種類により自給率に差がみられる。地図中Dで示したオランダにおいて、2007年の自給率が100%を下回っているものはどれか。

- ①果実 ②野菜類 ③肉類 ④牛乳・乳製品



【3】 次の1/25,000地形図を見て、問いに番号で答えよ。



問1 地形図中A-B間の距離は、図上では約12cmであった。実際の距離として最も近いのはどれか。

- ①1.2km ②3.0km ③12km ④30km

問2 港から「コンドイ岬」を見たときの方位として正しいのはどれか。

- ①南東 ②南西 ③北西 ④北東

問3 地形図中に見られないものはどれか。

- ①寺院 ②小・中学校 ③郵便局 ④交番

問4 港から広い道を通って集落に入り、そこからさらに「養殖場」まで歩いたときの説明として、誤っているのはどれか。

- ①道に沿って桑畑がみられた。 ②道の前半は登り坂、後半は下り坂が中心だった。
 ③集落内には多くの路地があった。 ④養殖場は防風林で囲まれていた。

問5 島の沖合いにある  の記号から判断すると、この島の周囲に見られる地形は何か。

- ①火山 ②砂州 ③サンゴ礁 ④大陸棚

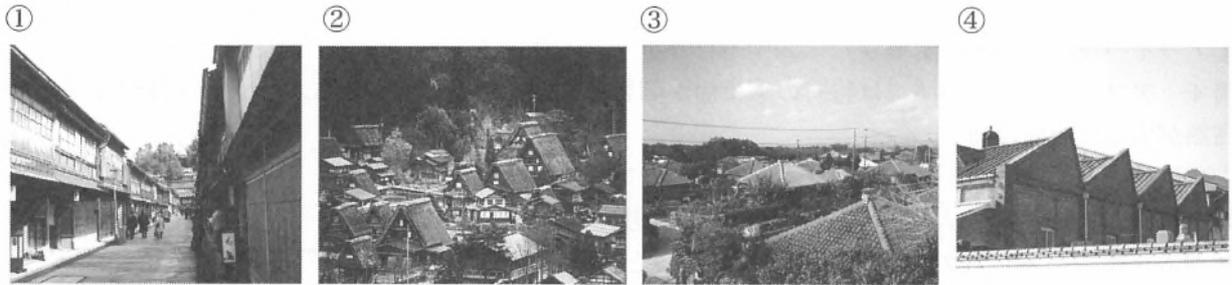
問6  の記号の植物として考えられるものはどれか。

- ①ヤシ ②ブナ ③マツ ④スギ

問7 地形図から読み取れることとして正しいのはどれか。

- ①島の周囲はほとんど崖になっている。 ②起伏が少なく、ほぼ平坦な島である。
③集落は散村形態をなしている。 ④島の人口は年々減少傾向にある。

問8 地形図中央の集落は、伝統的建造物群保存地区に認定され、景観の保存が図られている。この集落の写真はどれか。



問9 この島の産業について地形図から読み取って推察できることはどれか。

- ①集落の周囲では稲作がさかんである。
②景観を生かした観光産業に力を入れている。
③サトウキビを原料とした製糖工業がさかんである。
④石灰岩を利用したセメント工業がみられる。

問10 次の中で、この島の最も近くに位置する島はどれか。

- ①淡路島 ②石垣島 ③佐渡島 ④伊豆大島

【4】 アフリカの民族と生活について問いに番号で答えよ。

問1 北アフリカに位置する地図中A～Fの国について設問に答えよ。

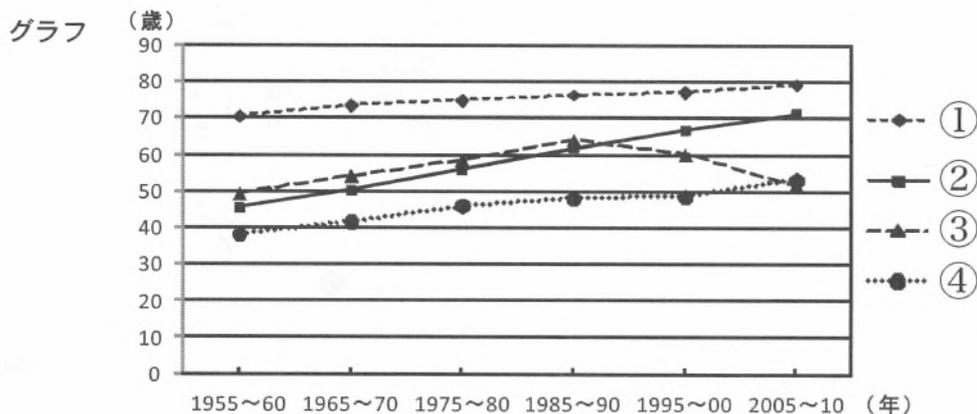
〔設問1〕 A～Fの国のすべてに共通する内容として正しいのはどれか。

- ①アラビア語を公用語としている。 ②地中海性気候の地域が含まれる。
③石油が経済を支えている。 ④かつてイギリスの植民地だった。

〔設問2〕 A～Fの国民の多くは共通の宗教を信仰するが、それと同じ宗教を信仰する国民が多数を占めるのはどの国か。

- ①イタリア ②インド ③トルコ ④ベトナム

〔設問3〕 グラフは北アフリカ、南アフリカ、西アフリカとヨーロッパの平均寿命の推移を示している。北アフリカに該当するのはどれか。



『国連資料』による

問2 地図中**+**の地点に該当するのはどれか。

- ①赤道と0度の経線との交点 ②赤道と東経30度の経線との交点
- ③北回帰線と0度の経線との交点 ④北回帰線と東経30度の経線との交点

問3 地図中の矢印のように**α**→**β**に移動したとき、出会える食べ物を順番に並べたものとして正しいのはどれか。

- ア. ソルガムやトウジンビエなどの雑穀を杵でついて固めたウガリという料理
- イ. 小麦からつくった小さな粒状のパスタにスープをかけたクスクスという料理
- ウ. ヤムイモをゆでた後で餅のように加工したフウフウという料理

- ①ア→イ→ウ ②イ→ア→ウ ③イ→ウ→ア ④ウ→イ→ア

問4 アフリカの熱帯地域では特有の感染症が開発を妨げているといわれる。ハマダラ蚊が媒介して高熱が出る感染症は何か。

- ①睡眠病 ②黄熱病 ③コレラ ④マラリア

問5 表はアフリカで人口が多い上位5か国の男女別識字率である。この表から読み取れる内容として正しいのはどれか。

- ①人口が多い国ほど全体の識字率は低い。
- ②すべての国で全体の識字率は50%をこえている。
- ③すべての国で女性の識字率は60%以下である。
- ④すべての国で男性の識字率は女性より高い。

表 (％)

順位	国名	男性	女性
1	ナイジェリア	72.0	49.8
2	エチオピア	50.0	22.8
3	エジプト	74.6	57.8
4	コンゴ民主	77.4	56.6
5	南アフリカ	89.9	88.1

『データブック オブ・ザ・ワールド 2012年版』による

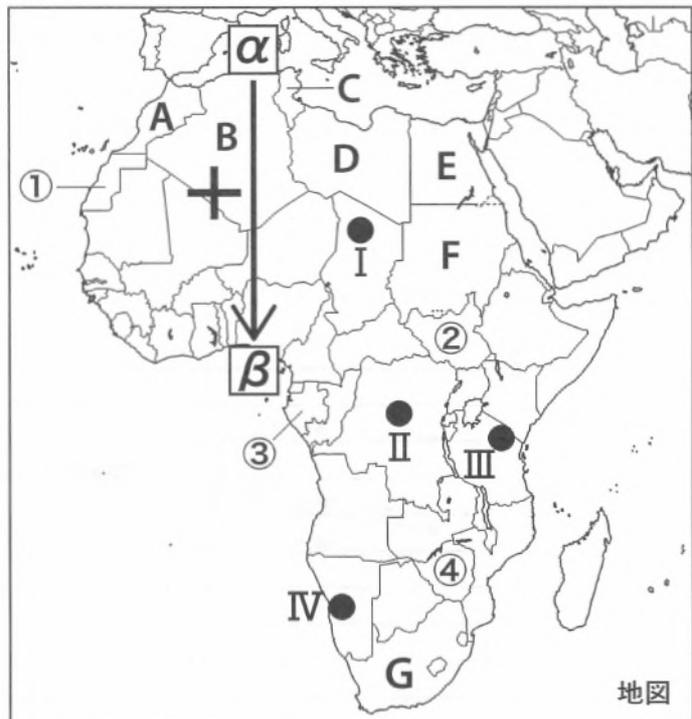
問6 地図中I～IVの地域の人々の生活について説明した文で正しいのはどれか。

- ①Iの地域では、焼畑による生活を営んでいる。
- ②IIの地域では、水と草を求めてラクダの遊牧を行っている。
- ③IIIの地域では、サバンナと呼ばれる草原でウシの遊牧を行っている。
- ④IVの地域では、大規模なプランテーション農業を行っている。

問7 地図中G国でかつてみられたアパルトヘイトを説明した文はどれか。

- ①白人が利益を独占するために実施した人種隔離政策。
- ②人口増加が激しいために実施した人口抑制政策。
- ③先住民族の利益を保護するために実施した先住民優先政策。
- ④人口集中地域の問題を解決するために実施した住民移住政策。

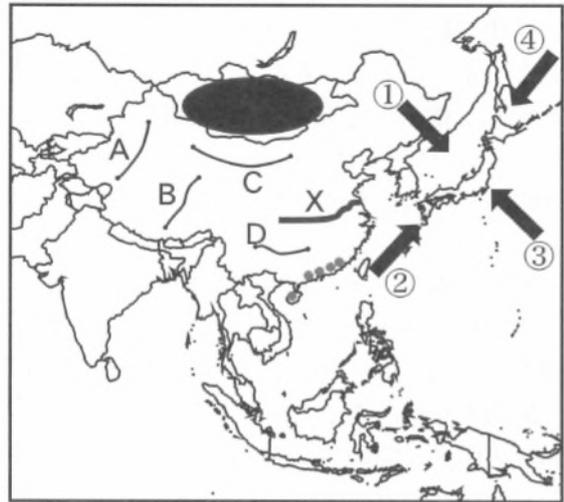
問8 2011年7月に独立したアフリカで最も新しい国は、民族的にいわゆる「ホワイトアフリカ」と「ブラックアフリカ」との境界線付近にあり、気候的にも乾燥気候から熱帯気候に移り変わるあたりでもある。新しい国とは地図中①～④のどれか。



【5】 次の地図を見て、問いに記号で答えよ。(ただし、問10は適語を答えよ。)

問1 地図中の地域の気候は季節風(モンスーン)の影響を強く受けている。日本付近の7月の季節風の風向として正しいのは地図中①～④のどれか。

地図



問2 地図中の線Xはチンリン山脈とハワイ川を結んだ線である。この線の説明として適切なものはどれか。

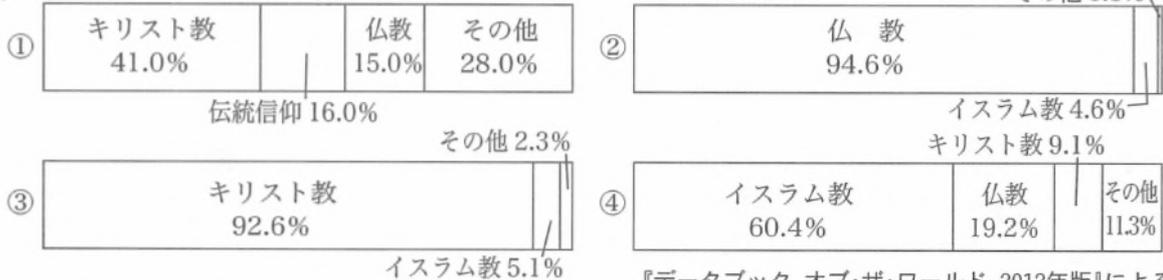
- ①畑作と稲作の境界となる年降水量約1,000mmの線。
- ②羊と牛の飼育地域の境界となる年降水量約500mmの線。
- ③針葉樹林と広葉樹林の境界となる年平均気温18°Cの線。
- ④農耕と牧畜の境界となる年平均気温10°Cの線。

問3 地図中●地域でおもに見られる農牧業の形態と代表的な作物・家畜の組合せとして正しいのはどれか。

- ①焼畑農業：タロイモ ②遊牧：ヤギ・羊 ③企業的放牧：肉牛 ④混合農業：小麦

問4 グラフ1はタイ、フィリピン、マレーシア、大韓民国のそれぞれの国で信仰されている宗教別人口割合を示している。マレーシアに該当するのはどれか。

グラフ1



『データブック オブ・ザ・ワールド 2012年版』による

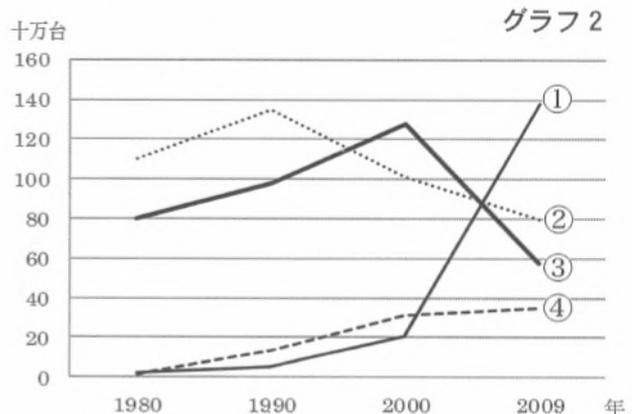
問5 改革開放後の中国の変化について述べた文として、誤っているのはどれか。

- ①一人っ子政策の影響から急速な高齢化が進行している。
- ②都市部と農村部の経済格差が顕著になっている。
- ③都市部を中心に耐久消費財の普及が急速に進んでいる。
- ④内陸部を中心に少数民族の自治区が増加している。

問6 大韓民国の文化について述べた文として、誤っているのはどれか。

- ①ハングルが使われるが、人名や地名は全て漢字で表記される。
- ②オンドルと呼ばれる床暖房を利用した家屋がある。
- ③チマやチョゴリなどが伝統的な民族衣装として着用されてきた。
- ④キムチやチゲなどの伝統料理が各家庭で食されている。

問7 グラフ2は日本、大韓民国、中国、アメリカ合衆国の自動車生産台数の推移を示している。中国に該当するのはどれか。

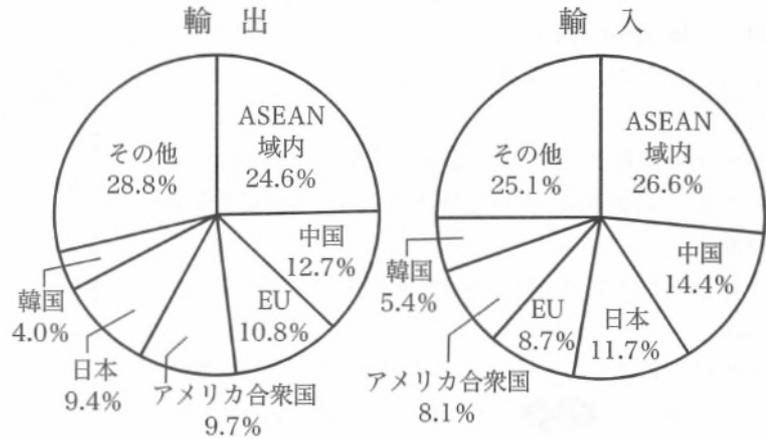


『世界国勢図会 2011/12年版』による

問8 グラフ3はASEAN加盟国全体の貿易相手国・地域の割合(2010年)を示したものである。グラフから読み取れることとして、誤っているのはどれか。

- ①輸出、輸入ともにASEAN域内がおよそ4分の1をしめる。
- ②輸出、輸入ともにASEAN以外で最も多いのは中国である。
- ③輸出、輸入ともに日本は第3位である。
- ④輸出、輸入ともにEUはアメリカ合衆国を上回っている。

グラフ3



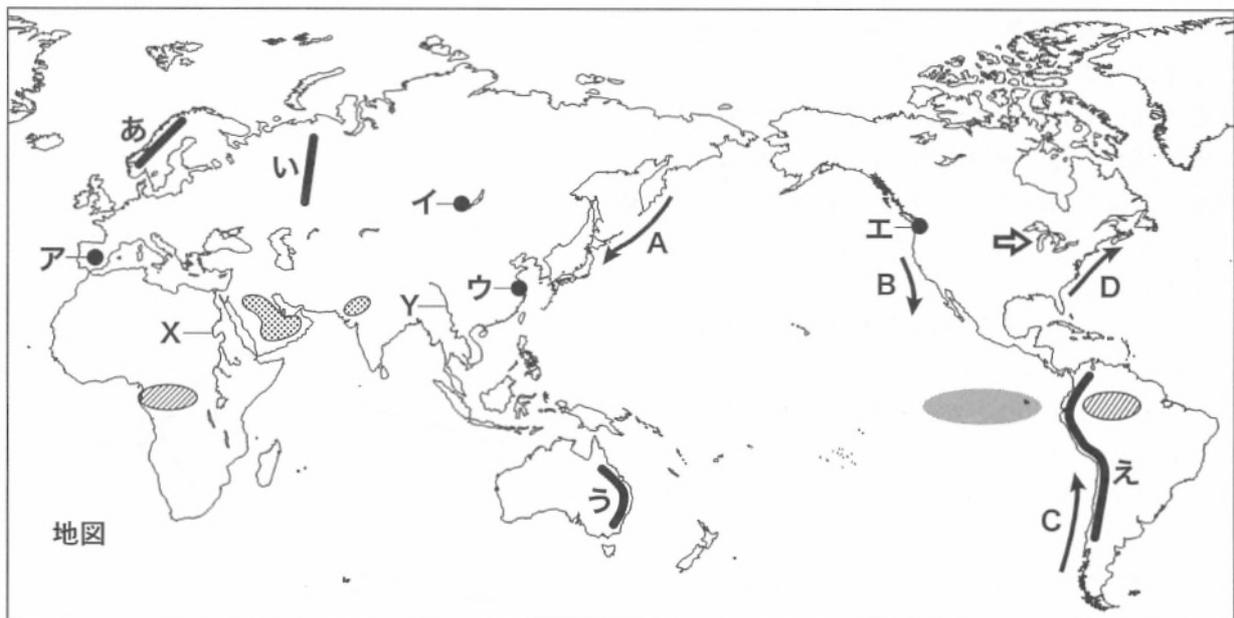
『IMF, Direction of Trade Statistics July2011』より作成

問9 中国では、沿岸部と内陸部の経済格差を解消するため2000年から西部大開発を開始した。主な事業としてチンハイ省のゴルムドとチベット自治区のラサを結ぶ青蔵鉄道の敷設がある。その鉄道路線は地図中A～Dのどれか。

問10 地図中の●は、外国の資本や技術を積極的に導入するために、税制上の優遇措置などを取り入れて設置された特別区域であり、シェンチェンなど5か所が指定された。これらの地域を何と呼ぶか。

【6】 次の文を読み、地図とグラフを見て、問いに記号で答えよ。(ただし、問6は適語を答えよ。)

a 気候や b 植生、c 地形などの自然環境は地域によって違いが大きく、d 人々の生活と密接に関係している。私たちが住む e 日本の気候は、海に囲まれているため海洋性の気候だが、同時に季節風の影響も強く受けている。



問1 下線部aに関し、設問に答えよ。

〔設問1〕右のグラフは地図中ア～エのどの都市のものか。

〔設問2〕地図中  で示された砂漠の主な成因はどれか。

- ①大陸の中ほどで海から遠く離れているため。
- ②大山脈の風下側に位置しているため。
- ③付近を寒流が流れているため。
- ④中緯度（亜熱帯）高圧帯に位置しているため。

〔設問3〕海洋に面した地域の気候は付近を流れる海流の影響が大きい。地図中A～Dの海流のうち暖流はどれか。

問2 下線部bに関し、地図中  の付近で見られる景観として適切なのはどれか。

- ①まばらな林と草原が広がり、乾季にはほとんどの草は枯れ、樹木も落葉することが多い。
- ②ブナやナラなどの落葉広葉樹林が広く分布し、秋には紅葉が見られる。
- ③背の高い常緑広葉樹が密生している森の中は、昼間でも薄暗い。
- ④モミヤマツなど単一の樹種からなる広大な針葉樹林が見られる。

問3 下線部cに関し、設問に答えよ。

〔設問1〕地図中あ～えの山脈について、山脈名と造山帯の区分との組合せで誤っているのはどれか。

- ①あ：スカンディナヴィア山脈：古期造山帯 ②い：ウラル山脈：古期造山帯
- ③う：グレートディヴィディング山脈：新期造山帯 ④え：アンデス山脈：新期造山帯

〔設問2〕次の河川について述べた文の内容と、地図中X・Yの河川との関係はどれか。

「源流部は湿潤地域にあるが、おもに乾燥地域を流れている河川で、外来河川と呼ばれている。」

- ①XとYの両方の河川にあてはまる。 ②XとYのどちらの河川にもあてはまらない。
- ③Xの河川にのみあてはまる。 ④Yの河川にのみあてはまる。

問4 下線部dに関し、人々が暮らす住居は気候に適応したものが多い。図のような住居が見られる国として正しいのはどれか。

- ①ロシア ②インドネシア ③エジプト ④イタリア

問5 地図中  で示された湖について述べた文で正しいのはどれか。

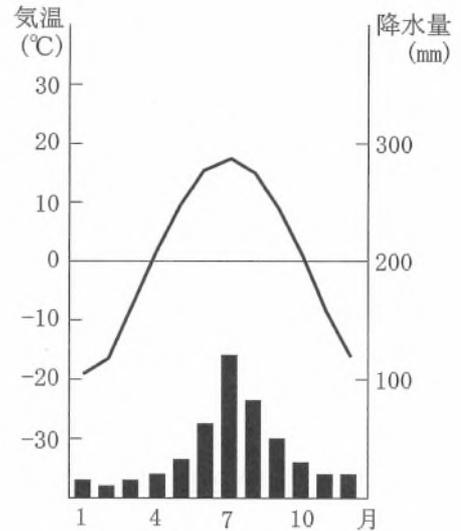
- ①氷河によって削られた窪地くぼちに水がたまってできた湖である。
- ②湖から流れ出る河川がないため、塩分を多く含む湖である。
- ③近年は周辺の砂漠化の影響で急速に面積が縮小している。
- ④沿岸には多くの油田があり、国際紛争の原因となっている。

問6 地図中  の海域で平年より海水温が上昇し、異常気象の原因とされる現象を何と呼ぶか。

問7 下線部eに関し、日本の気候について述べた文として、誤っているのはどれか。

- ①日本海側はシベリア高気圧から吹き出す風の影響で、豪雪地帯となる所が多い。
- ②月別の降水量を比べてみると、ほとんどの地域で梅雨の季節である6月が最も多い。
- ③国土が南北に細長いいため、亜熱帯から亜寒帯までの気候が見られ、地域によって違いが大きい。
- ④瀬戸内地方では年間を通して降水量が少なく、特に夏季は高温で乾燥することが多い。

グラフ



図

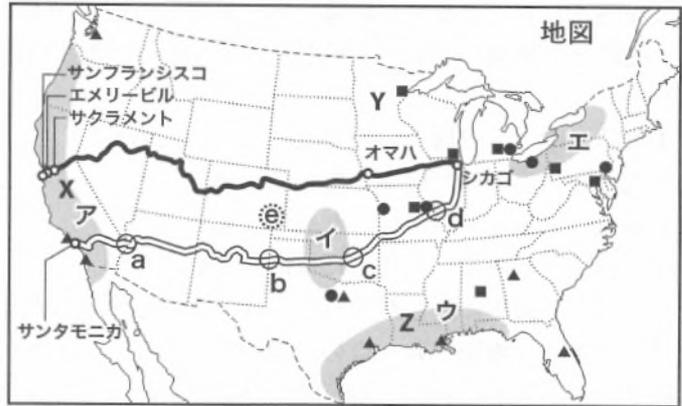


【7】 次の文を読み、地図を見て、問いに記号で答えよ。

Aさんはシカゴからエメリービルに向かう特急列車に乗り、1869年にオマハ・サクラメント間に開通した最初の大陸横断鉄道に思いをはせた。

Bさんは、大陸を横断する最初の国道として1926年に創設された国道66号線の跡をたどってシカゴからサンタモニカへ自動車で行った。

Cさんは、航空機でシカゴからサンフランシスコへ移動した。

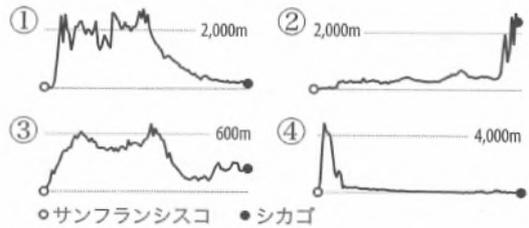


問1 Aさんは、シカゴ近郊で果てしなく続く農園を車窓から見た。作物として最も適切なものはどれか。

- ①小麦 ②ぶどう ③トウモロコシ ④綿花

問2 Aさんは、サンフランシスコ〜シカゴ間の断面図を作成した。最も適切なものは右の①〜④のどれか。

断面図 注) 縦と横の比率は異なる



問3 Bさんがたどった道路は、軍需産業の西部進出を機に軍用品の運搬路として重視された。アメリカ合衆国の北緯37度線以南の地域は、1970年ころよりさまざまな産業が発達し、人口が増加した。この地域を何というか。

- ①サンベルト ②シリコンヴァレー ③スノーベルト ④メガロポリス

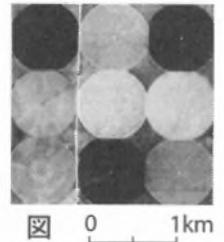
問4 Bさんは途中でミシシッピ川を渡った。次の設問に答えよ。

〔設問1〕 ミシシッピ川を渡った地点は地図中a〜dのどこか。

〔設問2〕 ミシシッピ川について述べた文で不適切なものはどれか。

- ①河口に鳥趾状三角州が発達している。 ②雨季と乾季で水量の変動が大きい。
③かつて川に沿ってフランス人が入植した。 ④大型船で農作物の輸送が行われている。

問5 Cさんは、地図中e付近で飛行機の窓から図のような景観を見た。ここで行われていることは何か。 ①魚の養殖 ②石油の備蓄 ③太陽光による発電 ④畑の灌漑



問6 アメリカ合衆国本土には4つの時刻帯があるため、Cさんはサンフランシスコ到着にあたり時計を修正した。その内容として正しいのはどれか。

- ①2時間進める ②2時間戻す ③4時間進める ④4時間戻す

問7 地図中▲●■は自動車工業・航空機産業・鉄鋼業のおもな分布を示す。自動車工業・航空機産業の正しい組合せはどれか。

- ①自動車工業：● 航空機産業：■ ②自動車工業：▲ 航空機産業：●
③自動車工業：● 航空機産業：▲ ④自動車工業：▲ 航空機産業：■

問8 表は、地図中X〜Zの各州の住民について示したものである。州と表中あ〜うとの正しい組合せはどれか。

- ①X：あ Y：い Z：う ②X：あ Y：う Z：い
③X：う Y：あ Z：い ④X：う Y：い Z：あ

問9 地図中ア〜エの各地域と、そこにしばしば災害をもたらすものの組合せとして不適切なものはどれか。

- ①ア：地震 ②イ：トルネード ③ウ：ハリケーン ④エ：干ばつ

表 2010年

	人種構成 (%)				ヒスパニック (%)
	白人	黒人	アジア系	その他	
あ	85.3	5.2	4.0	5.5	4.7
い	62.6	32.0	1.5	3.9	4.2
う	57.6	6.2	13.0	23.2	37.6

『データブック オブ・ザ・ワールド 2012年版』による

地理紀要総目次 (第21~30号)

第21号 (2004)

故人追悼
平井聰一先生を偲んで 野 宗雄 (県大楠) 2

OBエッセイ
「むつ」と「みらい」 勝田 厚 (県逗子校長) 3

世界を見る「南欧」
ポルトガル紀行 堀井 純子 (県厚木北) 4
オリンピックの故国を訪ねてーギリシャの現状と課題ー
中島 功 (県伊勢原高校) 8
バスク地方の巡礼地を巡る 福元雄二郎 (神奈川大附) 13

研究ノート
中学生と「捕鯨問題」をどう考えるか
ー「ナショナリズム」が異文化排除につながる風潮を憂うー
武田 竜一 (森村学園) 17
荻野川(相模川水系)流域地域調査
ー失われゆく「里山」景観を昆虫分布地理的手法等で探るー
谷田 和久 (県大和) 24
「神奈川の川」の教材化 ー多摩川下流域地域を例にー
井上 達也 (県大師) 30
「地域調べ」の方法を探るー中高教員のためのワークショップー
安田 直樹 (県荏田) 34

パソコンとつきあう
「地域研究」「紀要」等の原稿の作成・保存形態について
ー様々な形態のニーズに対応した総合的な原稿・教材作成ー
谷田 和久 (県大和) 36

海外研修旅行報告
バングラデシュ交通事情 ー首都ダッカを中心にしてー
小川 雅弘 (県伊志田) 38

研究活動報告
文部科学省「教育情報共有化促進モデル事業」の取り組みについて
斎藤 正 (県元石川) 43

第22号 (2005)

OBエッセイ
深見を歩いて 佐藤 新二 (県大和東校長) 2

特集 新たな授業実践の試み
チョークを捨てよう！ ーIT授業“地理”の実践ー
根元 一幸 (県横浜翠嵐) 3
鶴見川巡検 ー鶴見川流域を体験するー
中村 洋介 (公文国際学園) 9
地理授業における国際理解教育の展開について
小川 雅弘 (県伊志田) 13
総合学科高校における地域連携 ー都市横浜を事例としてー
大胡 秀行 (県金沢総合) 15

世界を見る
最近のエジプト観光事情 中島 功 (生命の星・地球博物館) 22
イスタンブール(トルコ) 岩井 純 (県厚木南) 29
サンティアゴ・デ・コンポステーラまでの巡礼路
ーカスティーリャ・イ・レオン地方からガリシア地方を巡るー
福元雄二郎 (神奈川大附) 35

夏季野外研修報告
近江路の自然と歴史的景観を訪ねて
中原啓太郎 (横浜雙葉) 41

海外研修報告
第3回アジア研究者国際会議に参加して
木下 禮子 (県和泉) 43

研究活動報告
JR根岸線山手・根岸駅周辺の巡検報告
井上 達也 (県大師) 47

第23号 (2006)

OBエッセイ
「アトラス現代世界を創って」川嶋 理夫 (県横須賀大津校長) 2

研究紹介
我が国における日系ブラジル人問題を考える
福元雄二郎 (神奈川大学附) 3

世界を見る
マリ共和国の農耕とマラリア 吉村 憲二 (県湘南) 12
ニュージーランドの自然・文化景観
中島 功 (県生命の星・地球博物館) 20
ニューヨーク市のゴミ事情 松川 潤 (県横浜翠嵐定) 24

研究ノート
新横浜駅周辺の地域の変貌 井上 達也 (県大師) 26
足尾巡検報告 米山 宏 (公文国際) 30
くずまき自然エネルギー博物館
根元 一幸 (県相模大野) 34
社会教育における地理の役割を考える
ー『わたちの地図帳 日本版』プロジェクトに関わってー
木下 礼子 (県和泉) 38
県道723号(関本小湧谷)とかながわの道
石川 晋吾 (松田土木事務所) 42

私の教材紹介
2つのコンテストと飢餓・貧困の「理解」
岩佐 賢史 (神奈川大学附) 44
パソコンを利用する自習用ソフトの作成
長谷川 大洋 (日大高) 48
世界の歌を原語でうたう 長谷川 大洋 (日大高) 50

野外巡検報告
基地をかかえる綾瀬市の地域性 ー基地の現状と伝統的な産業ー
新井 隆 (県綾瀬) 52

第24号 (2007)

OBエッセイ
「新しい地理教育カリキュラムの創造について」シンポジウムを聞いて
久間木重勝 (元県生田東) 2

世界を見る
「スリランカ紀行(アジア理解のモデルとして)」
斎藤 正 (県元石川) 8
南アメリカ紀行 中島 功 (県生命の星・地球博物館) 16
百聞は一見に如かず、百見は
長谷川 大洋 (日大高) 22

研究ノート
横浜市鶴見区の日系ブラジル人集住地区に関して
福元雄二郎 (神奈川大附) 24
川崎のおいたちとその変貌 ー地域研究委員会巡検報告ー
井上 達也 (県大師) 30
人種概念と人種分類をめぐる人類学の認識と高校地理
岩佐 賢史 (神奈川大附) 34
最近の赤十字社・血液事業の動向
小澤 俊彦 (県大和南) 39

新たな授業実践の試み
チョークを捨てよう2！ ーワープロかプレゼンか？ー
根元 一幸 (県相模大野) 40

車窓からの景観判読 ー東北新幹線沿線の屋根を題材にー
中村 洋介 (公文国際学園)・・・46

夏季野外巡検報告

2006年度 夏季地理野外巡検報告
小荒さち子 (横浜市立東)・・・49

第25号(2008)

故人追悼

佐藤新二先生のご逝去を悼んで
伊賀 康博 (県小田原城北工業定)・・・1

世界を見る

オーストラリア・ケアンズへ家族旅行に出かけよう
井上 達也 (県大師)・・・2
ローヌ地方からプロヴァンス地方を巡る
福元雄二郎 (神奈川県大学附)・・・8
変わりつつある都市・ソウル
岸野かしこ (神奈川県大学附)・・・14
三宅島を訪ねて
新井 隆 (県綾瀬)・・・18

私の教材紹介

自然地理学習と環境問題学習への視点を意識した 授業実践の報告
岩佐 賢史 (神奈川県大学附)・・・22
Google Earthを活用した地形の授業
根元 一幸 (県相模大野)・・・26

海外研修報告

第5回アジア研究者国際会議報告
木下 禮子 (県和泉)・・・30

秋季野外研修報告

秋季野外研修報告 橋本 達也 (川崎市立高津)・・・34

委員会報告

県下一斉テストの作問方針と視点 ー2007年度の問題よりー
吉村 憲二 (県湘南)・・・38
「写真で見る神奈川の変化」への取り組み
能勢 博之 (県鶴嶺)・・・44
教材委員会報告 太田 繁信 (県岸根)・・・46

第26号(2009)

OBエッセイ

民家と「地理」 鈴木 清 (元県上鶴間校長)・・・2

特集「2008年度 海外研修報告(抜粋)」

中国上海研修 ー激動・中国の今を旅するー
海外研修委員会編・・・4

世界を見る

地中海の分断国家・キプロス島を巡る
小嶋 太郎 (県大磯)・・・31

私の教材紹介

Street Viewを活用した都市の授業
根元 一幸 (県相模大野)・・・37

夏季野外調査報告1・2

筑波研究学園都市 ー各研究施設とつくばエクスプレスー
山中 政志 (県永谷)・・・41
地図と測量について ー夏季野外調査報告ー
村木 憲 (横浜)・・・43

秋季野外調査報告

東京臨海地域における日本の物流拠点と品川再開発
ー秋季野外調査報告ー 二宮 賢一 (県伊志田)・・・46

委員会報告

渡し船は横須賀市道 ー「変わりゆく神奈川県」よりー
野本 聡 (県津久井浜)・・・49
県下一斉テストの作問方針と視点 ー2008年度の問題よりー
吉村 憲二 (県湘南)・・・50

第27号(2010)

OBエッセイ

地理教員として思うこと 堀 秀雄 (前県厚木校長)・・・2

世界を見る

色丹島からみた領土問題 吉村 憲二 (県横浜栄)・・・3
ラオス紀行 ー東南アジアの秘境を訪ねてー
斉藤 正 (県麻生総合)・・・13
サヴォア地方を巡る 福元雄二郎 (神奈川県大学附)・・・21

私の教材紹介

カシミール3Dなどを活用した地形図の授業
根元 一幸 (県座間)・・・27

夏季野外調査報告

富山県夏季野外調査 横田 智子 (川崎市立商業定)・・・31

秋季野外調査報告

大田区「田園調布と町工場は今・・・」
新井 隆 (県大清水)・・・34

委員会報告

砂浜が減り続ける湘南海岸 ー「変わりゆく神奈川県」よりー
能勢 博之 (県立鶴嶺)・・・36
相模原市南部中心地としての機能が集積している相模大野
ー「変わりゆく神奈川県」よりー
安田 直樹 (県青少年センター)・・・38
授業実践例 ーアメリカ合衆国の人種・民族分布ー
太田 繁信 (県岸根)・・・40
県下一斉テストの作問方針と視点 ー2009年度の問題よりー
米山 貴之 (県二俣川看護福祉)・・・42

第28号(2011)

OBエッセイ

指導法の伝承?について 杉崎 忠久 (前県城山校長)・・・2

研究紹介

平塚の地形図の「戦時改描」について ー地形図から読めることー
島本 千也 (前県茅ヶ崎西浜)・・・7
「未完の脱植民地化」として見るハイチ地震の被害拡大
岩佐 賢史 (神奈川県大学附)・・・13

春季野外調査報告(2009年度)

多摩川河口における環境保全活動
松井 延安 (県横浜南陵)・・・17

夏季野外調査報告

三重県の地理的特徴について
布山 明 (川崎市立川崎定)・・・19

秋季野外調査報告

武蔵小杉の今昔 會田 洋一 (川崎市立商業定)・・・24

委員会報告

神奈川県内の再開発 ー「変わりゆく神奈川県」出版後半年の動きー
井上 達也 (県釜利谷)・・・26
県下一斉テストの作問方針と2010年度の問題について
磯崎 厚 (県厚木)・・・29

第29号(2012)

OBエッセイ

地理部会での思い出 朝野 哲夫 (元県平塚江南校長)・・・2

特集「2011年度 海外研修報告」

ロシア沿海州研修 ーシベリア鉄道とアムールの旅ー
海外研修委員会編・・・3

私の教材紹介

地理教育にライフサイクル思考を
ー「かばんの中でも温暖化?!」の活用ー
根元 一幸 (県座間)・・・30

夏季野外調査報告

新潟県の地域性の考察 伊賀 康博 (県小田原城北工業定)・・・34

秋季野外調査報告

東京の土地利用と水と新たな可能性について
 ー秋季野外調査の覚書ー 井上明日香 (県元石川)・・・39

委員会報告

横浜市金沢区長浜・富岡および野島巡検
 井上 達也 (県釜利谷)・・・41
 中郡が日本の落花生栽培の発祥地
 ー「相州落花生」(大磯町・二宮町・秦野市)ー
 能勢 博之 (県鶴嶺)・・・43
 「新地理演習帳」と「トライ地理20」の特色と活用のヒント
 山本 敦 (県茅ヶ崎西浜)・・・45
 県下一斉テストの作問方針と2011年度の問題について
 磯崎 厚 (県厚木)・・・47

夏季野外調査報告

渡良瀬川・利根川が紡いだ近代化
 有野 洋輔 (フェリス女学院)・・・24

秋季野外調査報告

県央地区の商業について
 ー厚木市と海老名市を事例にー
 山本 大 (県生田)・・・28

委員会報告

「東京大学農学部附属二宮果樹園」(中郡二宮町)
 比佐 隆三 (県二宮)・・・30
 県下一斉テストの作問方針と2012年度の問題について
 磯崎 厚 (県厚木)・・・32

地理紀要総目次(第21～30号)

福元雄二郎 (神奈川大学附)・・・45

第30号(2013)

追悼文

渡部 瞭先生
 ー鶴沼のエンサイクロペディア(百科全書)を目指した人ー
 島本 千也 (元茅ヶ崎西浜)・・・2

世界を見る

キューバ紀行 ー明るい社会主義のくに?ー
 斉藤 正 (県麻生総合)・・・4
 ルワンダの今 古屋 明子 (県釜利谷)・・・12

私の教材紹介

海外研修を生かしたロシア地誌の授業実践
 中村 洋介 (公文国際学園)
 小川 剛史 (サレジオ学院)
 栗林 和子 (鶴見大学附属)・・・16
 お手軽プレゼンテーション
 ー表現力アップに向けてー
 根元 一幸 (県座間)・・・20

付 記
 地理紀要の表紙絵は、第20号(2003年度)より今年度の第30号(2012年度)まで継続して佐野久子先生(元横浜緑ヶ丘高等学校)にお願いしてきました。絵画を趣味とされている先生の世界各地の風景画は、地理紀要の特集「世界を見る」ともマッチし、地理紀要の顔ともなってきました。この場を借りて、長期間に渡りご尽力を賜りました先生へ御礼申し上げます。

編集委員(企画委員会)

岩佐賢史(神大附) 岩崎浩実(希望ヶ丘)
 古谷明子(釜利谷) 中島 功(七里ガ浜)
 小嶋太郎(大磯) 根元一幸(座間)
 齊藤 正(麻生総合) 福元雄二郎(神大附)
 岸野かしこ(神大附) 村木 憲(横浜)

2013年3月6日発行

編集発行 神奈川県高等学校教科研究会
 社 会 科 部 会
 地 理 分 科 会

発行者 吉 村 憲 二
 〒253-0111
 高座郡寒川町一之宮9-30-1
 県立寒川高等学校
 電話 0467-74-2312

印刷所 (株)中島印刷所
 横浜市南区二葉町4-39
 電話 045-251-0064~6